

平成 16 年 1 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

特に目立った地震活動はありませんでした。全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 99 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 93 回でした。

国土地理院による GPS 観測結果^(注1) では、特段の変化はありませんでした。

東海地域及びその周辺においては、2001 年頃からの長期的な地殻変動が継続しています。その他の地域では特段の変化はありませんでした。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

噴火したのは、桜島、諏訪之瀬島の 2 火山で、いずれも従来からの山頂噴火が継続しました。

三宅島の火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、長期的には減少傾向にありますが、最近 1 年あまりは日量 3 千～1 万トン程度で概ね横ばい傾向となっています。

阿蘇山では規模の大きい土砂噴出が発生しました。火山活動が活発になっており、今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もあります。

霧島山(御鉢)の浅部の熱的な活動は徐々に収まってきました。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 15 年 12 月～平成 16 年 1 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/index.html>

注 2：地震活動および火山活動の詳細については、地震火山月報(防災編) 1 月号(2 月 20 日に H P 掲載予定)をご覧ください。

注 3：平成 16 年 2 月の地震活動及び火山活動については平成 16 年 3 月 5 日に発表の予定です。

2004 年 1 月の地震活動^{注 1)}

番号	月 日 時 分	震央地名	緯度 経度 深さ M	最大震度	備考 / コメント
1	01月06日14時50分	熊野灘	34° 12.7N 136° 43.0E 37km M:5.4	4	フィリピン海プレート内部の地震。余震活動は不活発。
2	01月09日22時04分	新潟県中越地方	37° 17.6N 138° 43.5E 16km M:4.0	3	陸域の浅い地震。
3	01月11日16時57分	長野県中部	36° 23.7N 137° 59.0E 8km M:4.0	4	陸域の浅い地震。
4	01月15日09時10分	国後島付近	43° 51.2N 146° 10.6E 106km M:5.1	3	太平洋プレート内部の地震。二重地震面の上面に位置する。
5	01月23日18時01分	福島県沖	37° 15.5N 141° 07.8E 66km M:5.3	4	太平洋プレート内部の地震。二重地震面の上面に位置する。
6	01月27日13時20分	八丈島近海	32° 43.2N 140° 38.2E 72km M:5.0	3	太平洋プレート内部の地震

その他の活動^{注 2)}

2月4日04時11分	茨城県南部	35° 59.5N 140° 04.9E 66km M:4.2	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界の地震
2月4日15時08分	岩手県中	40° 08.4N 141° 53.9E 63km M:5.3	4	太平洋プレートと陸のプレートの境界付近の地震

注 1) 「主な地震活動」とは 陸域で 4.0 以上かつ震度 3 以上地震、 海域で M5.0 以上かつ震度 3 の地震、 M6.0 以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

注 2) 「その他の活動」とは 主な地震活動の基準に該当する地震で 2004 年 2 月に発生したもの。

・地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

2004 年 1 月 26 日に気象庁において第 215 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表しました。その後も地震・活動等の状況に変化はありません。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

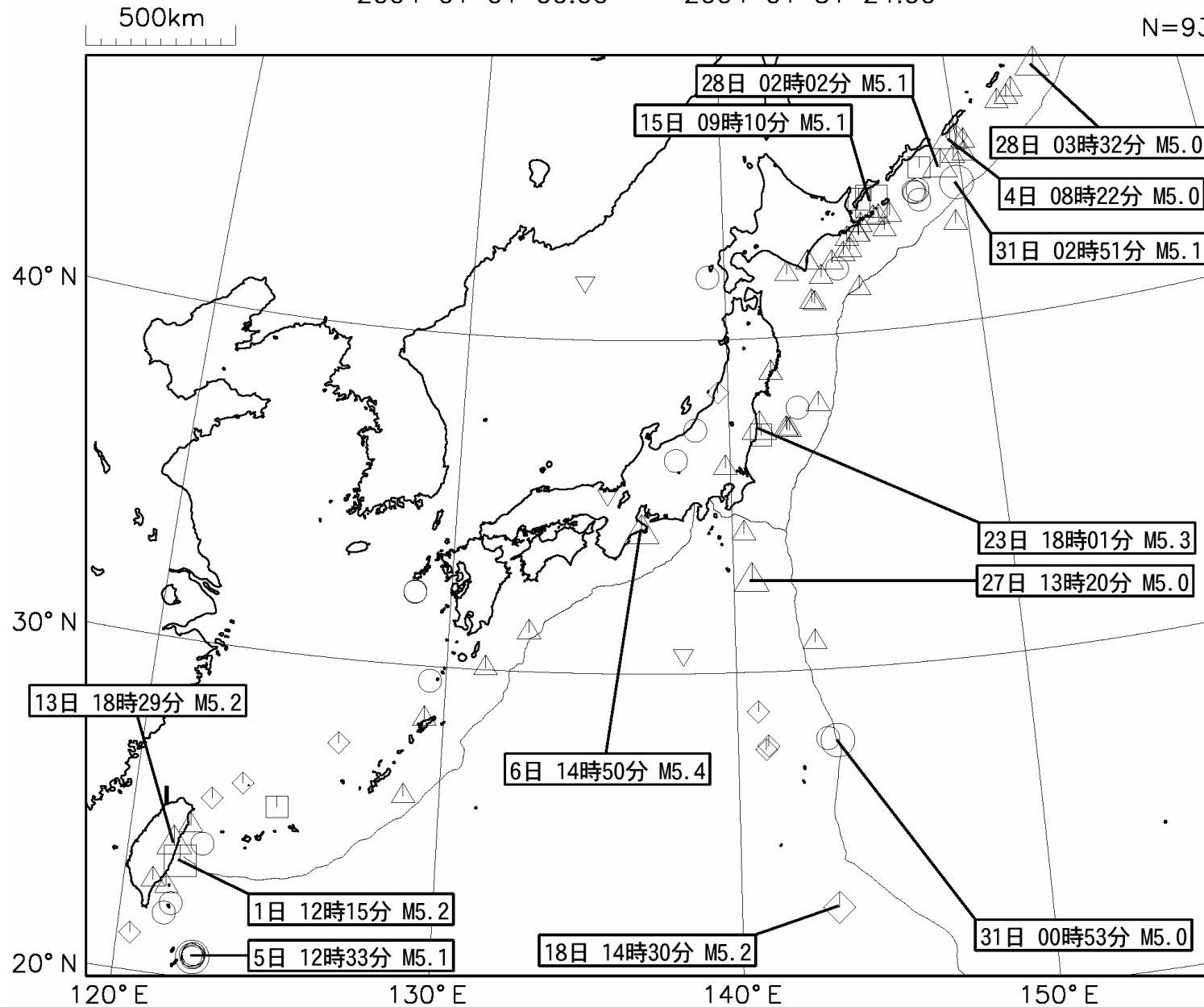
全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる東海地域およびその周辺で見られる長期的な地殻変動は依然継続しています。

2004 年 1 月の全国の地震活動（マグニチュード 4.0 以上）

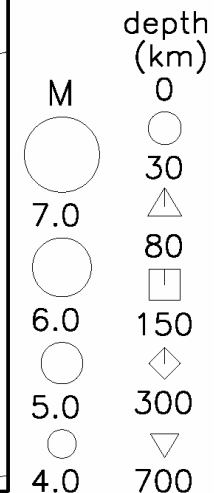
2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

N=93



特に目立った活動はなかった。

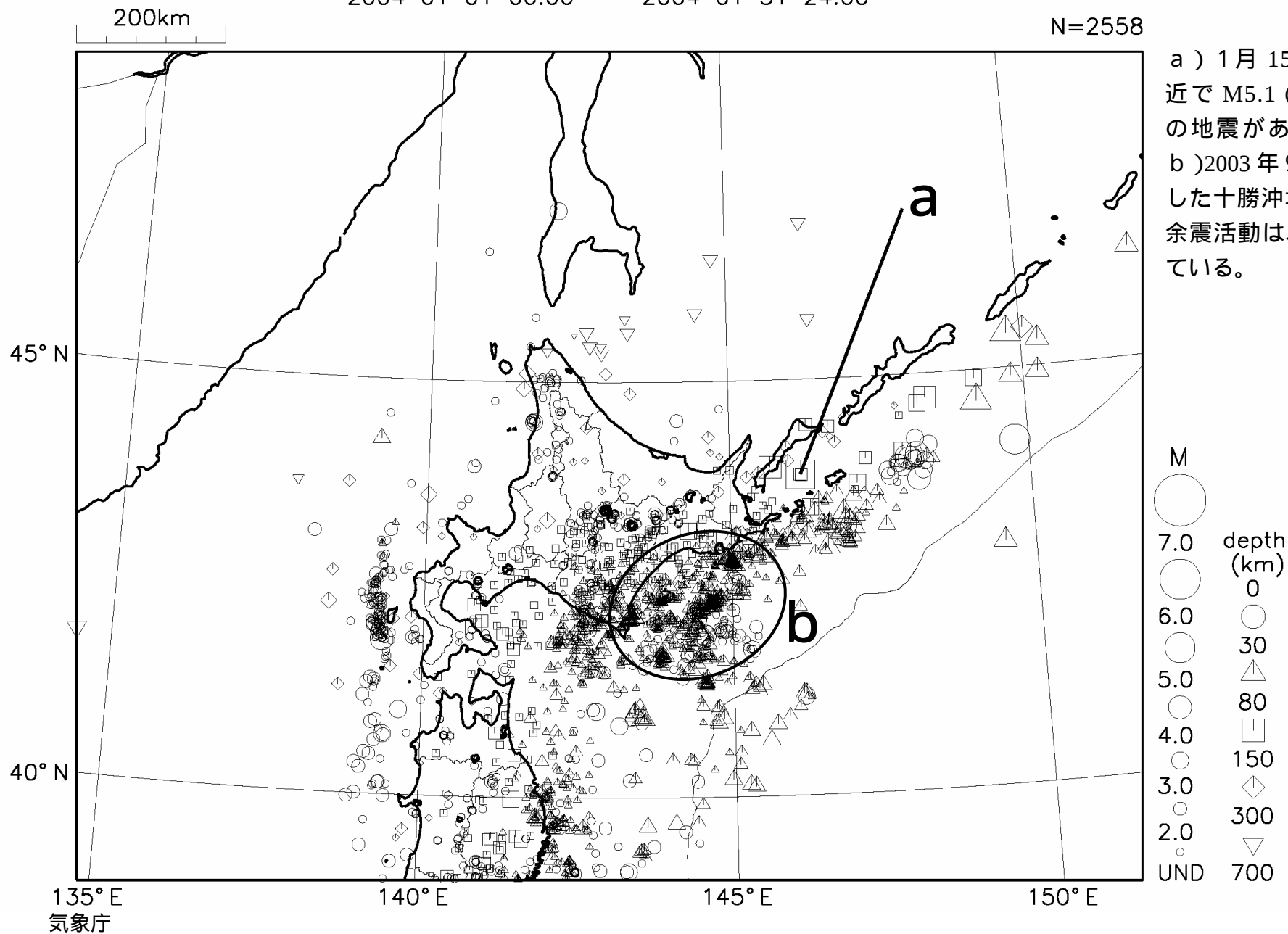
[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]



北海道地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

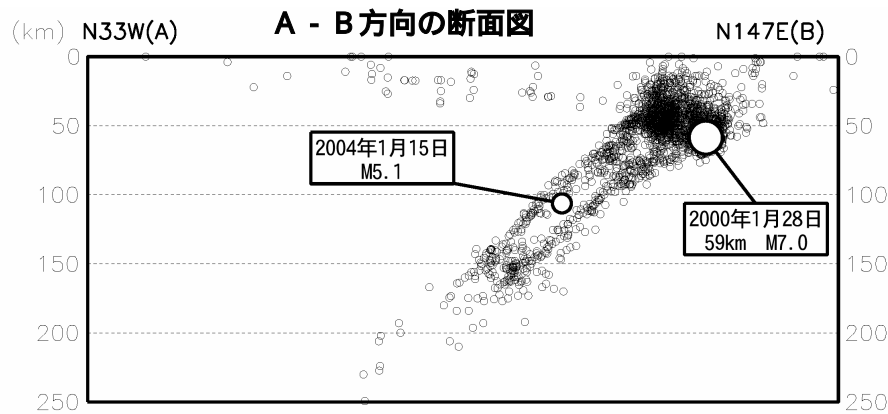
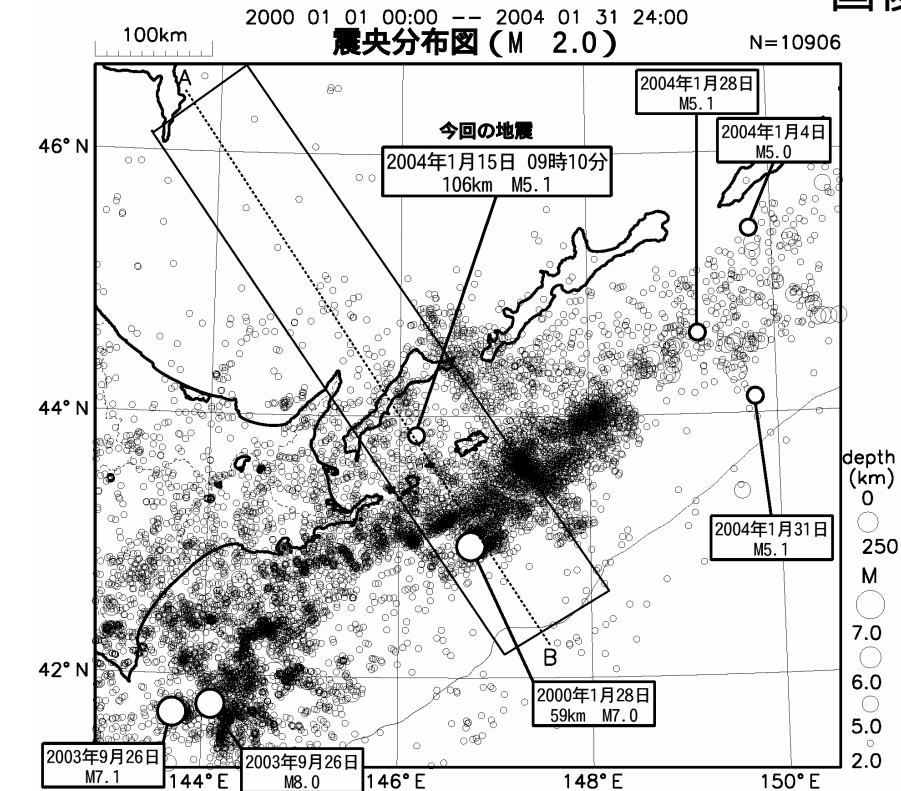
N=2558



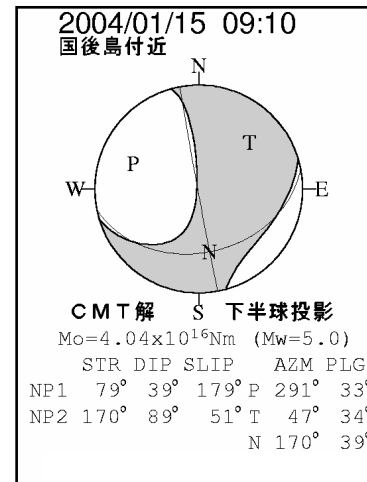
a) 1月15日に国後島付近で M5.1 (最大震度3) の地震があった。

b) 2003年9月26日に発生した十勝沖地震 (M8.0) の余震活動は、順調に減衰している。

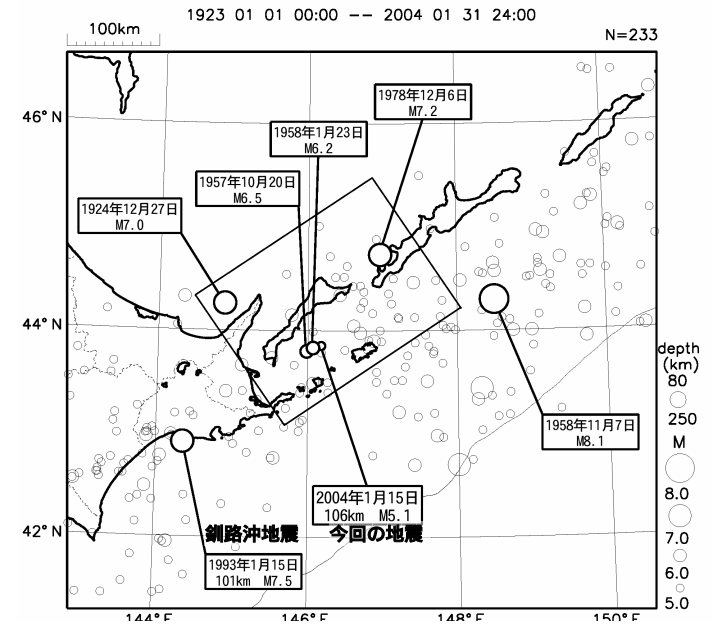
国後島付近の地震活動



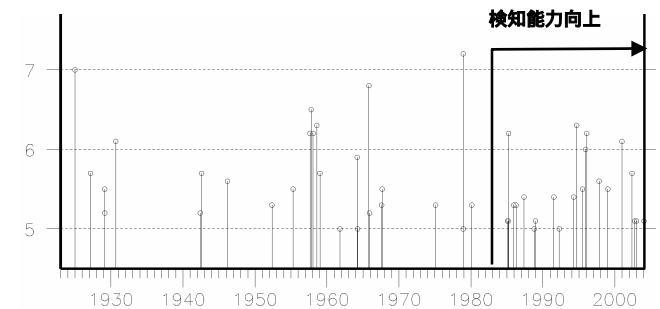
1月15日に国後島付近の深さ 106km で M5.1 (最大震度 3) の地震があった。
この地震は太平洋プレート内部の地震であり、二重地震面の上面に位置する。発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向 (北西下がり) に圧力軸を持つ型であった。



震央分布図 (M 5.0、80km より深い地震)

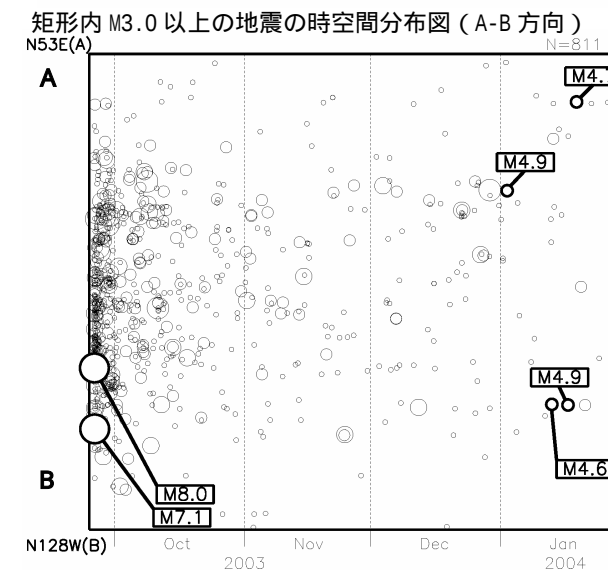
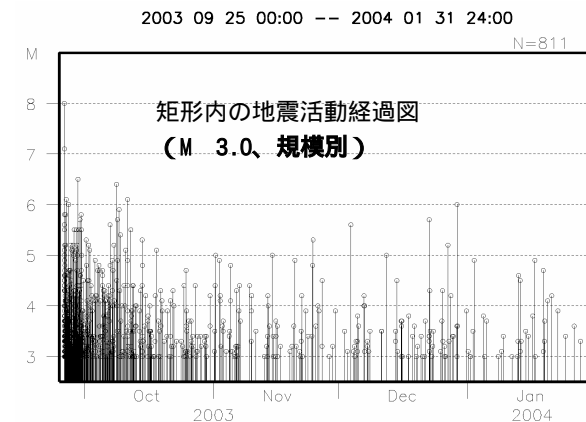
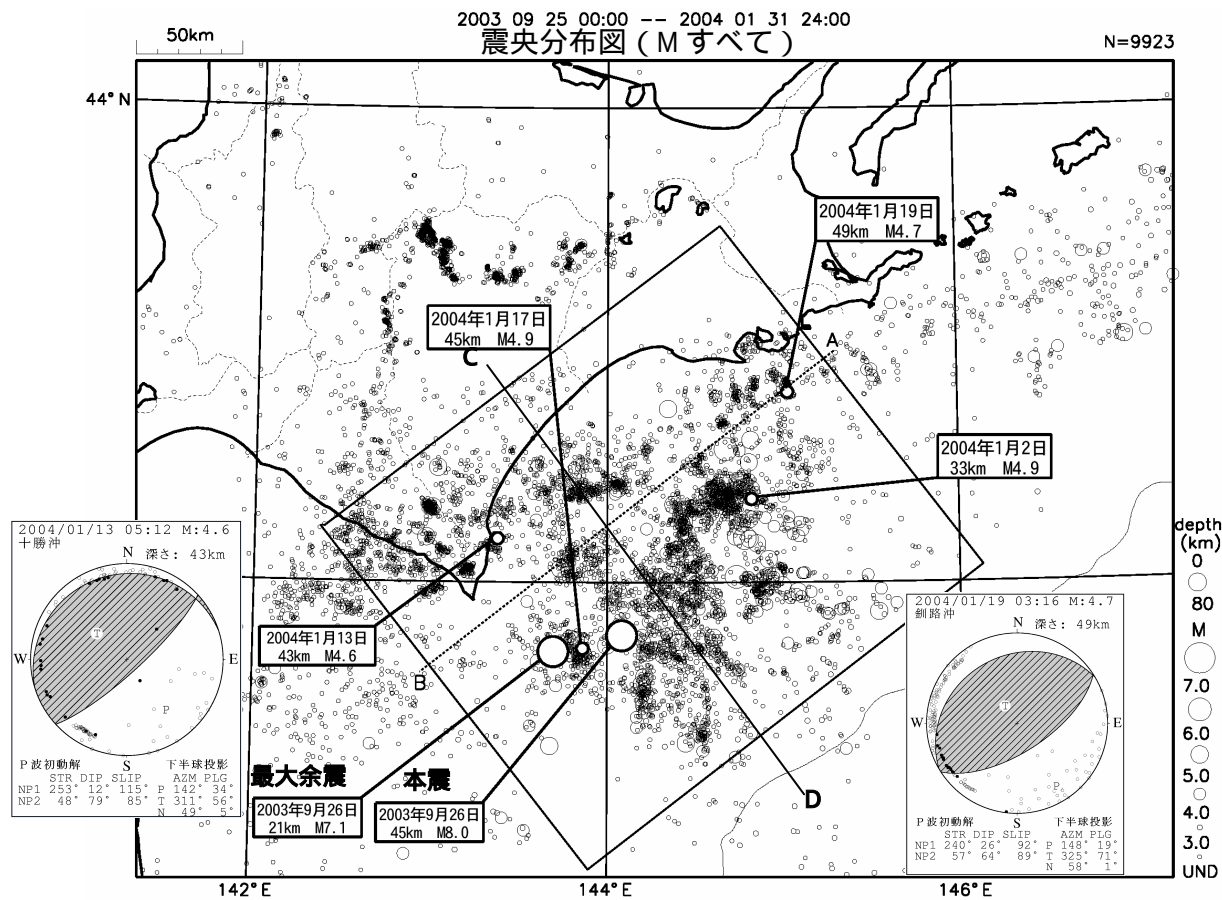


矩形内の地震活動経過図 (規模別)

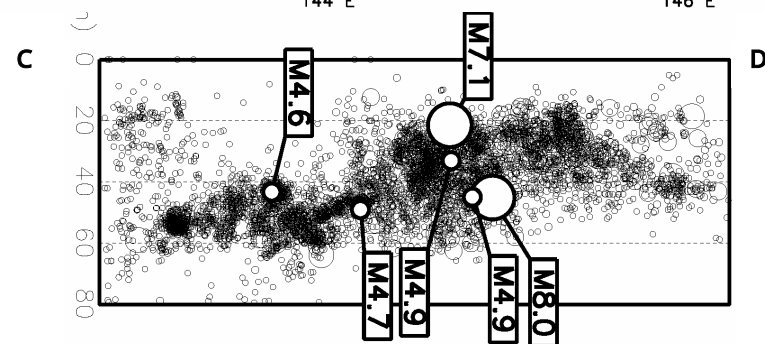
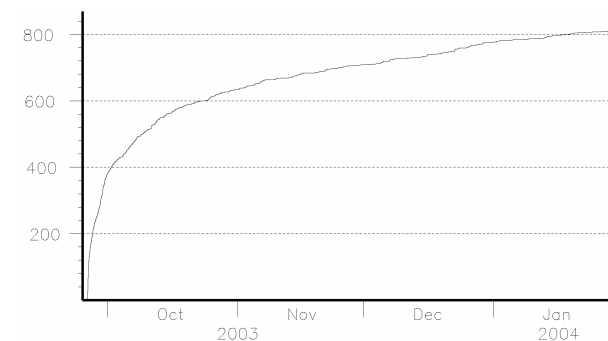


十勝沖地震の余震活動

2003年9月26日に発生した十勝沖地震(M8.0)の余震活動は、順調に減衰している。2004年1月以降は、M5.0以上の余震はなく、1月2日(最大震度2)と17日(最大震度1)とともにM4.9の余震が最大である。震度4以上を観測した余震はなく、1月13日のM4.6と19日のM4.7とともに最大震度3を観測した。



矩形内の地震回数積算図 (M 3.0)

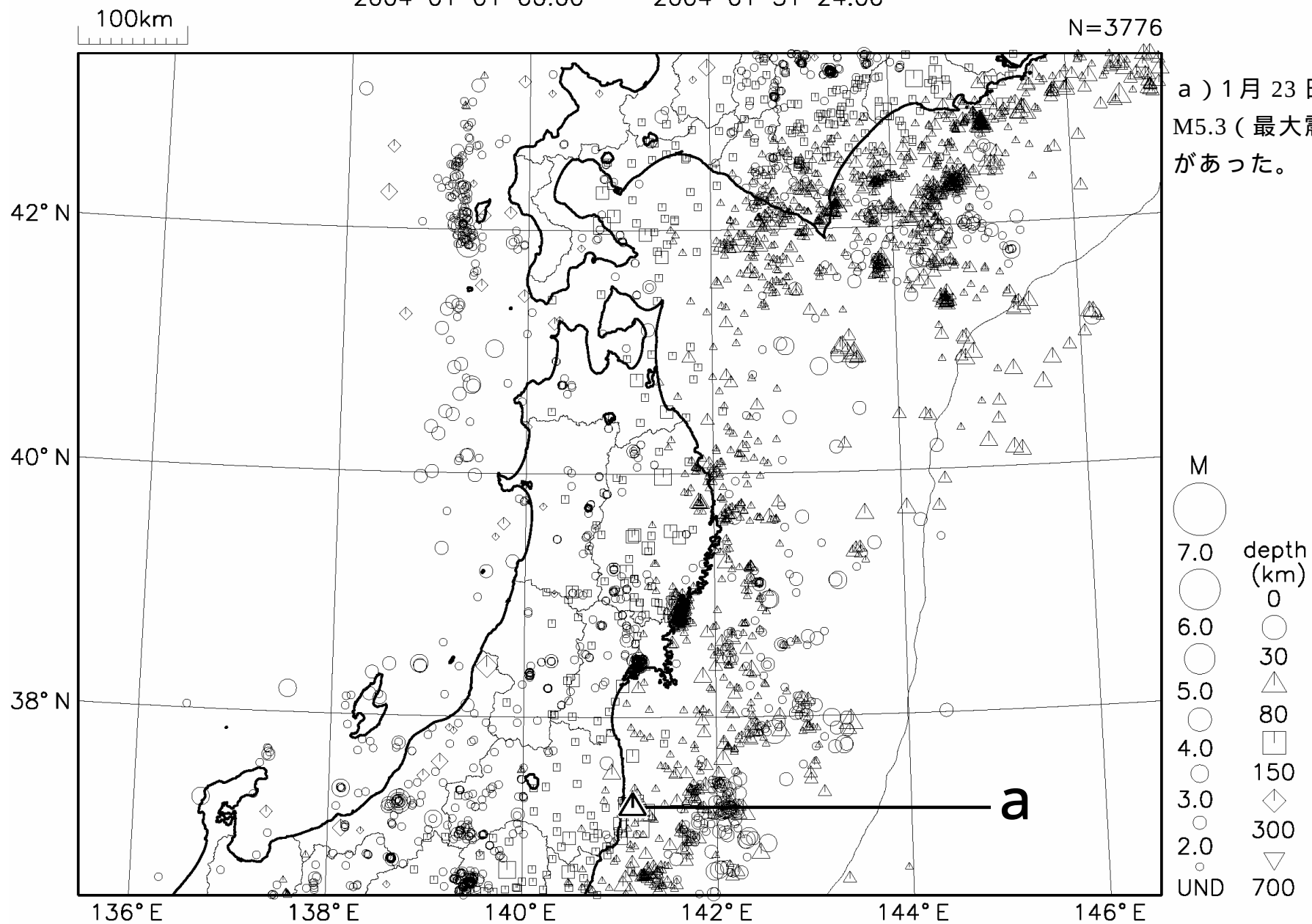


矩形内断面図
(C-D 方向)

東北地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

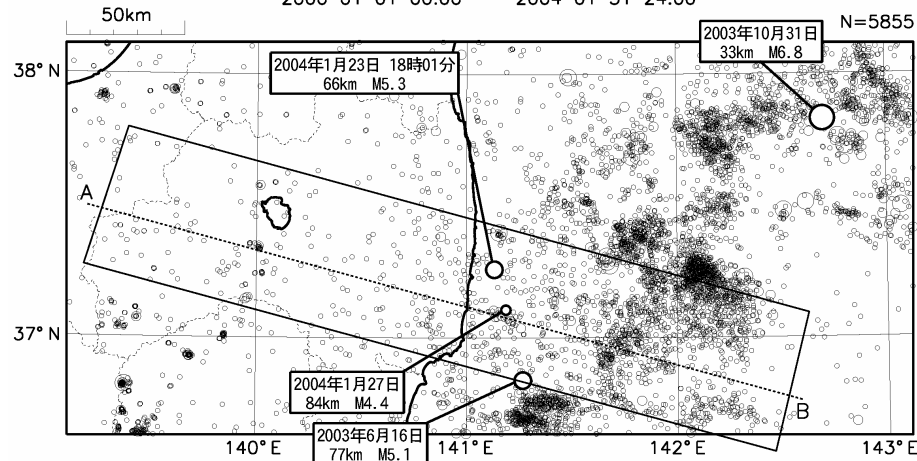
N=3776



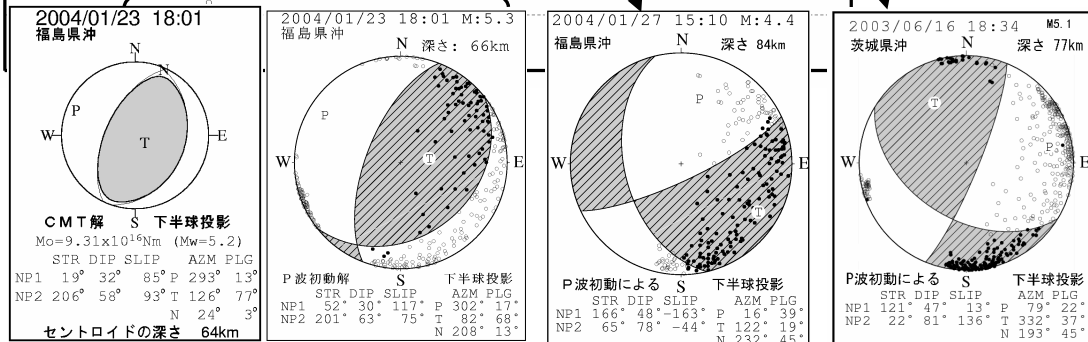
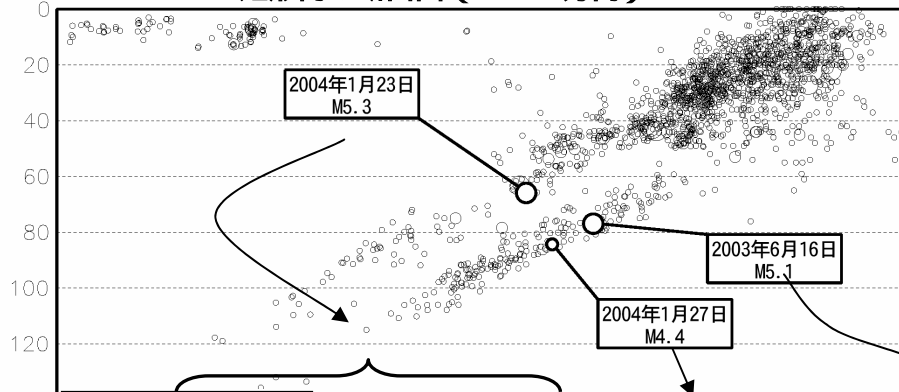
a) 1月23日に福島県沖でM5.3(最大震度4)の地震があった。

震央分布図 (M 2.0、160km より浅い地震)

2000 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00



(km) N75W(A) 矩形内の断面図 (A - B 方向)



気象庁

福島県沖の地震活動

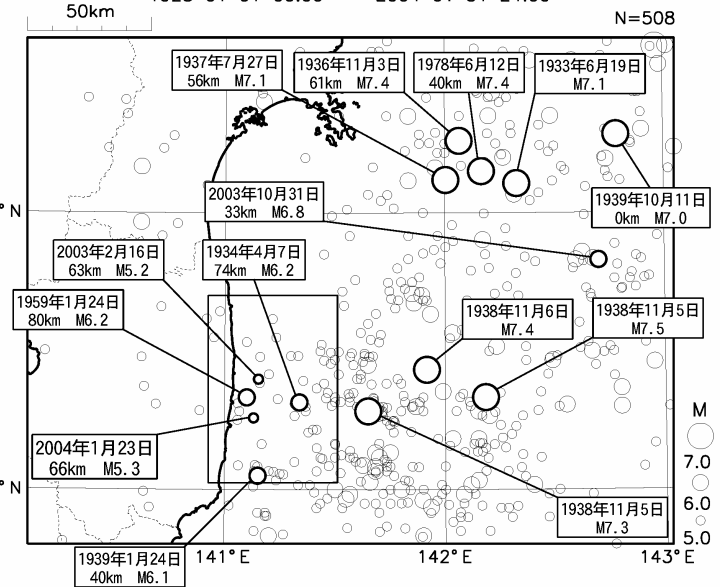
1月23日に福島県沖の深さ66kmでM5.3(最大震度4)の地震があった。この地震は、太平洋プレート内部の地震であり、二重地震面の上面に位置する。

一方、1月27日に23日の地震の南約20kmのところで、M4.4(最大震度3、深さ84km)の地震があった。この地震は二重地震面の下面に位置する。

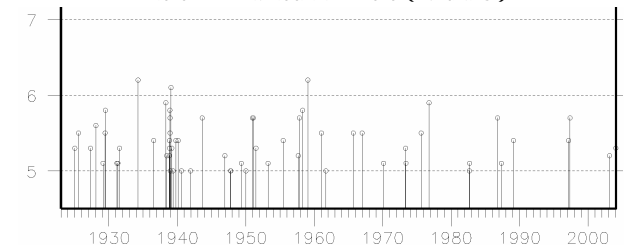
発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向に、前者の地震が圧力軸を、後者が張力軸を持つ型であり、ともに典型的な発震機構である。

震央分布図 (M 5.0、100km より浅い地震)

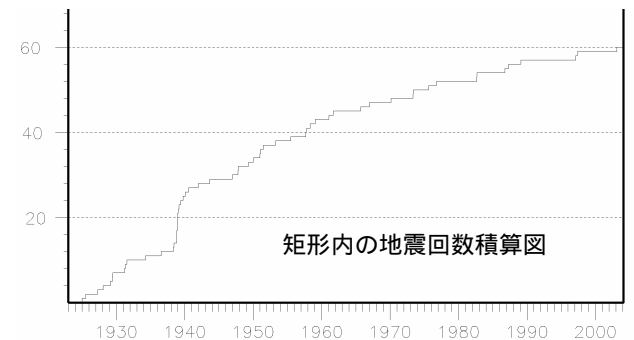
1923 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00



矩形内の地震活動経過図 (規模別)



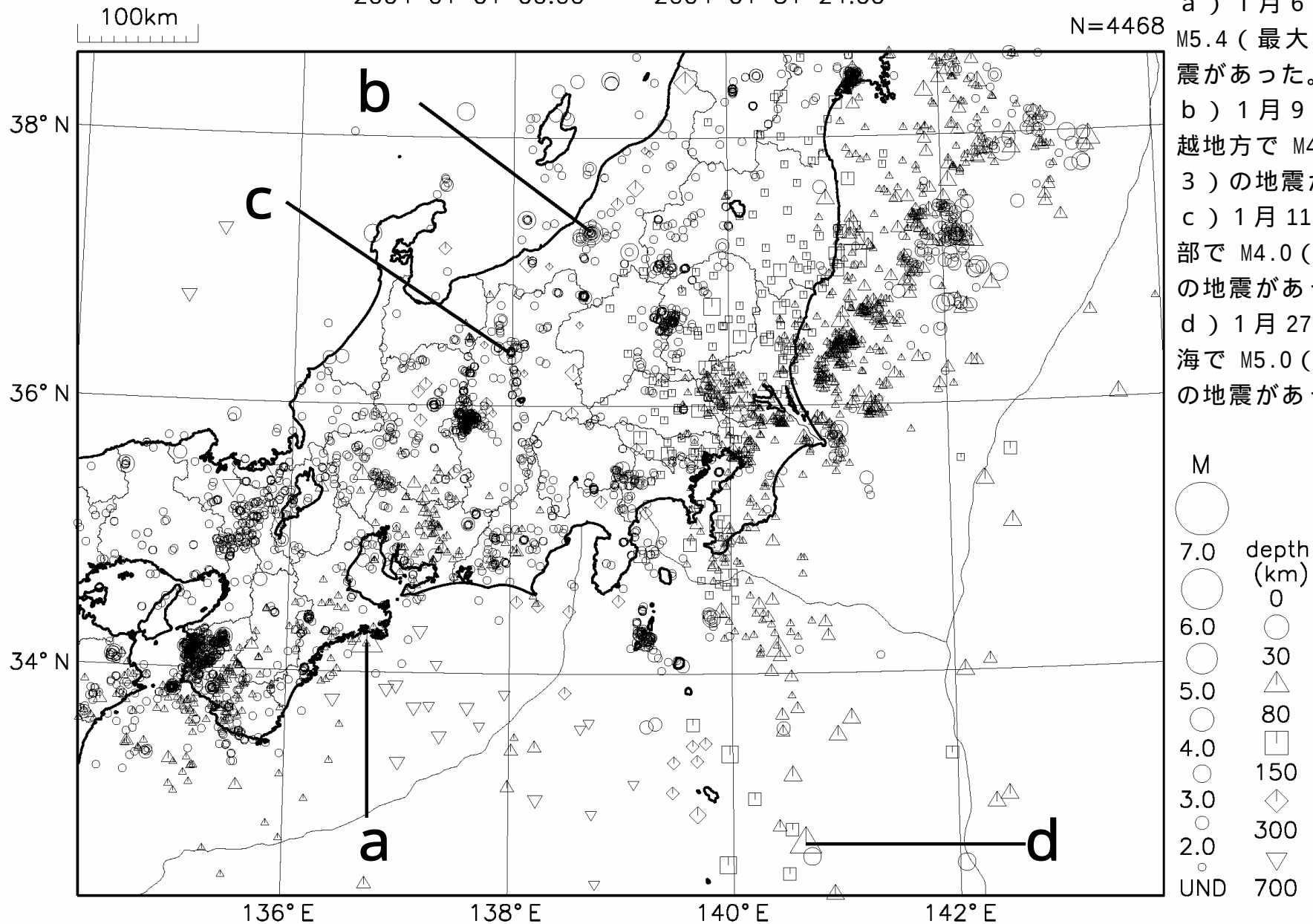
矩形内の地震回数積算図



関東・中部地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

N=4468



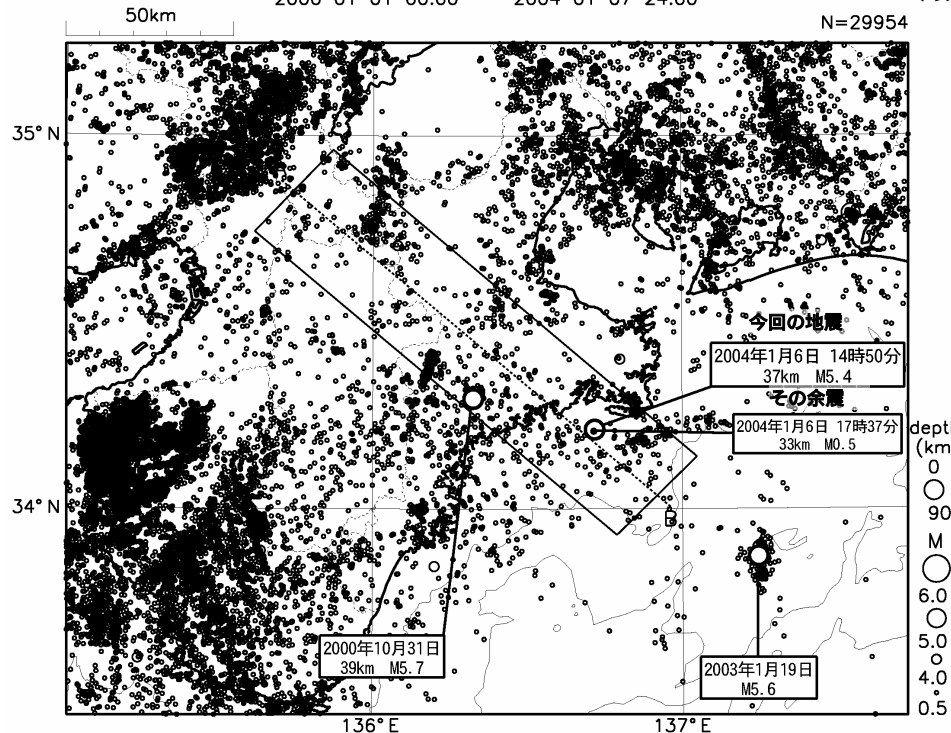
a) 1月6日に熊野灘で M5.4 (最大震度 4) の地震があった。

b) 1月9日に新潟県中越地方で M4.0 (最大震度 3) の地震があった。

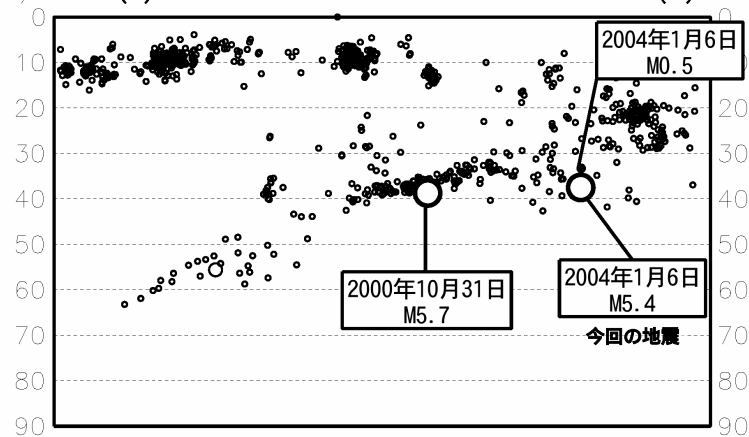
c) 1月11日に長野県中部で M4.0 (最大震度 4) の地震があった。

d) 1月27日に八丈島近海で M5.0 (最大震度 3) の地震があった。

震央分布図 (M 0.5)
2000 01 01 00:00 -- 2004 01 07 24:00



(km) N50W(A) 矩形内の断面図 (A - B 方向) N130E(B)



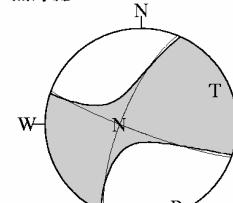
熊野灘の地震活動

1月6日、熊野灘の深さ37kmでM5.4の地震があった（最大震度4）。M0.5の余震が、本震の約3時間後に1回観測された。

この地震は、沈み込むフィリピン海プレート内部の地震であり、発震機構は、東北東 - 西南西方向に張力軸を持つ型であった。

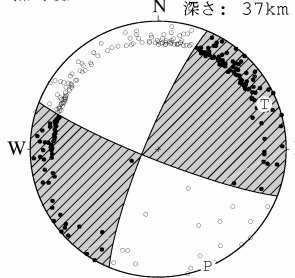
発震機構

2004/01/06 14:50
熊野灘



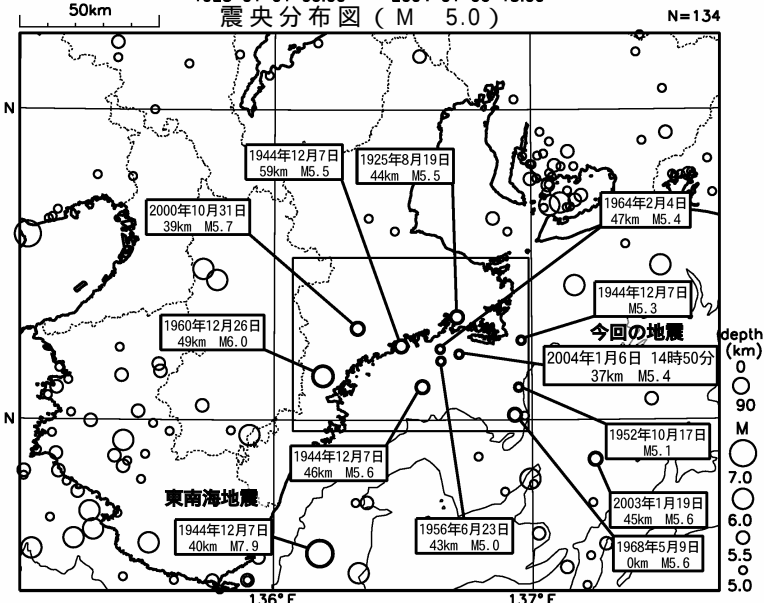
CMT解 下半球投影
Mo=8.31x10¹⁶Nm (Mw=5.2)
STR DIP SLIP AZM PLG
NP1 202° 73° 7° P 157° 7°
NP2 110° 83° 163° T 65° 17°
N 269° 72°
セントロイドの深さ 33km

2004/01/06 14:50 M:5.4
熊野灘

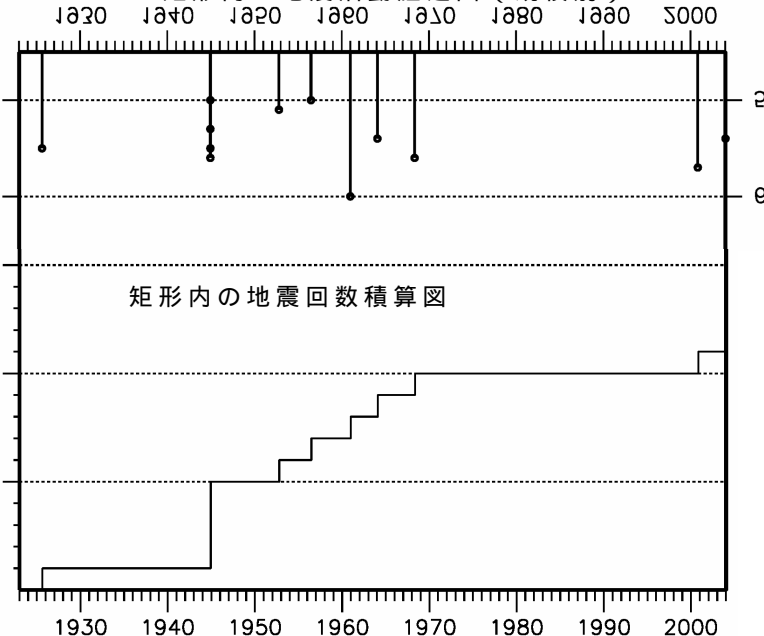


P波初動解 下半球投影
STR DIP SLIP AZM PLG
NP1 203° 82° 7° P 157° 1°
NP2 111° 83° 171° T 67° 11°
N 252° 79°

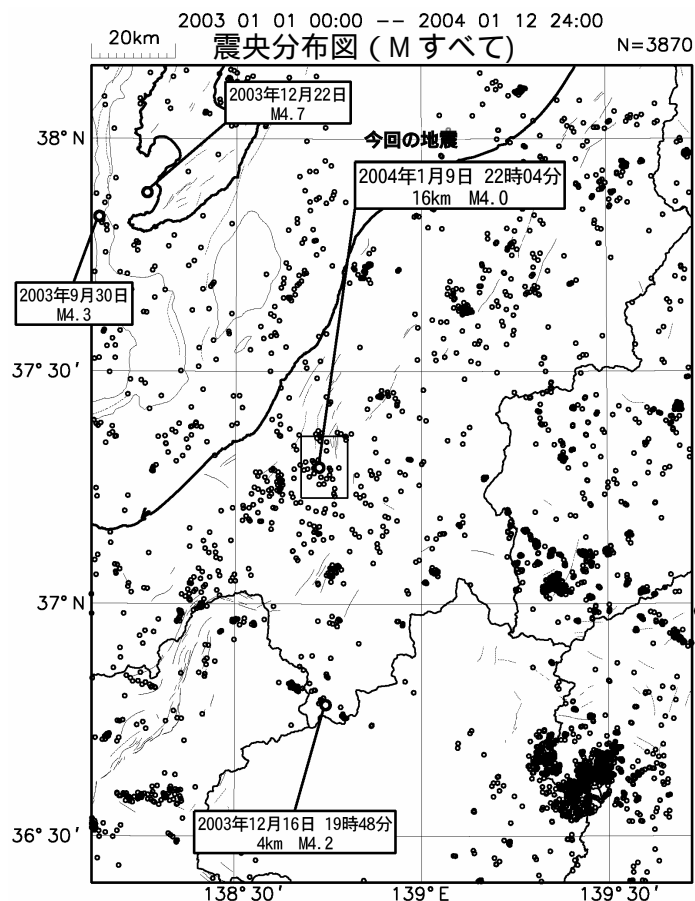
1923 01 01 00:00 -- 2004 01 06 15:00
震央分布図 (M 5.0)



矩形内の地震活動経過図 (規模別)

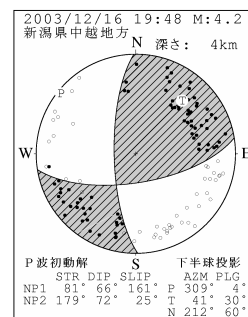
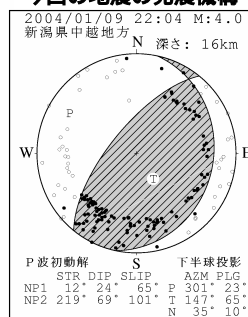


矩形内の地震回数積算図



新潟県中越地方の地震活動

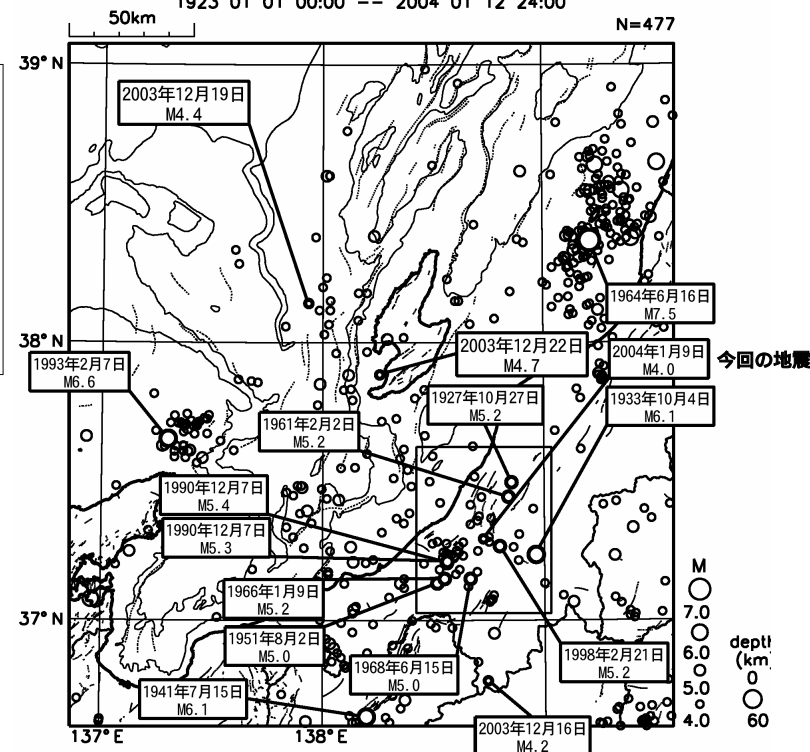
今回の地震の発震機構



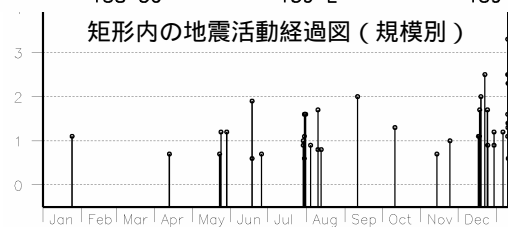
1月9日に新潟県中越地方の深さ16kmでM4.0の地震があった(最大震度3)。余震活動は、ほぼ1日間で収まった。

この地震の発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

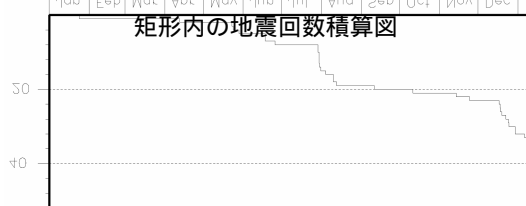
震央分布図 (M 4.0)



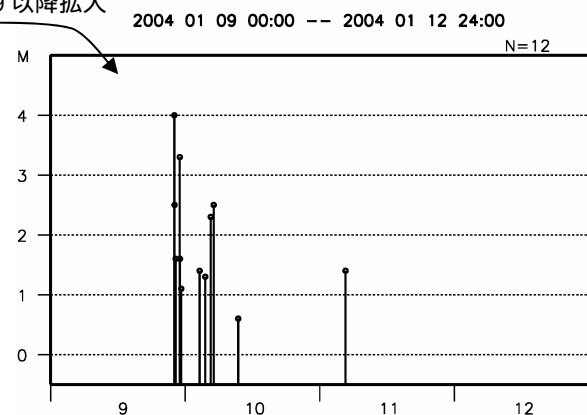
矩形内の地震活動経過図 (規模別)



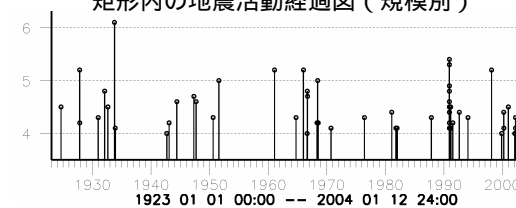
矩形内の地震回数積算図



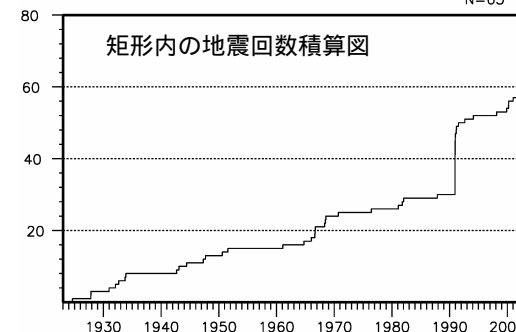
1/9以降拡大



矩形内の地震活動経過図 (規模別)



矩形内の地震回数積算図



1999 01 01 00:00 -- 2004 01 13 12:00

10km

N=2010

今回の地震

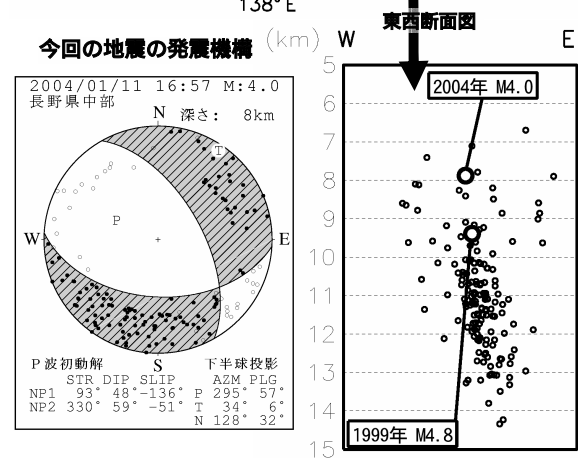
2004年1月11日 16時57分
8km M4.0

1999年10月29日
7km M4.2

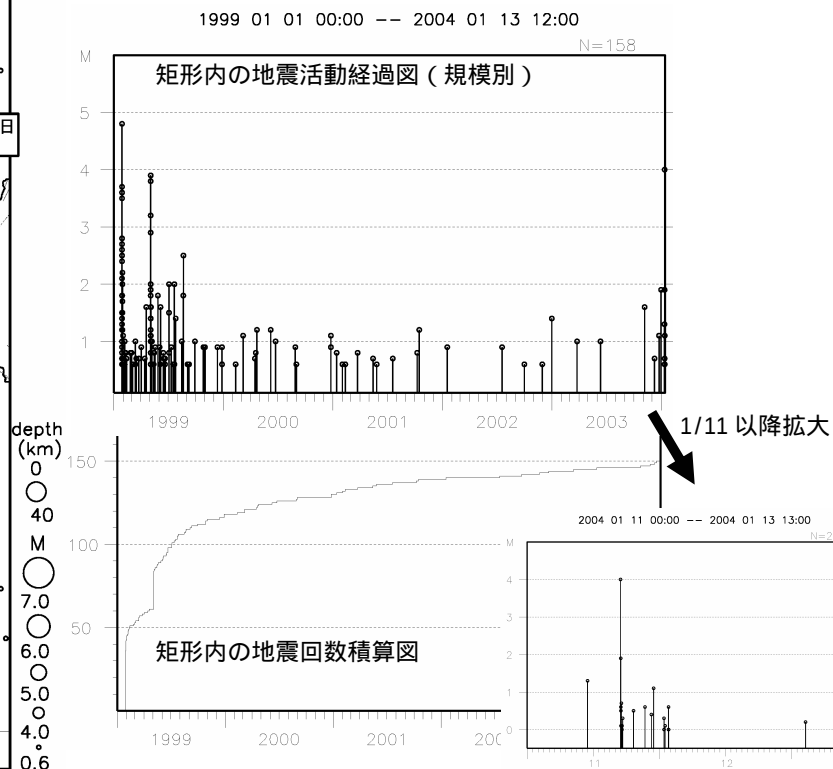
1999年5月3日
10km M3.9

1999年1月28日
9km M4.8

36°N



長野県中部の地震活動



10km

1923 01 01 00:00 -- 2004 01 13 12:00

N=312

1941年7月15日
M5.1

1941年3月7日
M5.0

1986年12月30日
M5.9

1998年7月1日
M5.0

1967年1月16日
M5.2

1967年2月3日
M5.4

松代群発のおお
その活動域

松代群発地震の最大

松代群発地震の最大

1999年1月28日
M4.8

1967年5月5日
M5.2

depth (km)

0

40

M

7.0

6.0

5.0

4.0

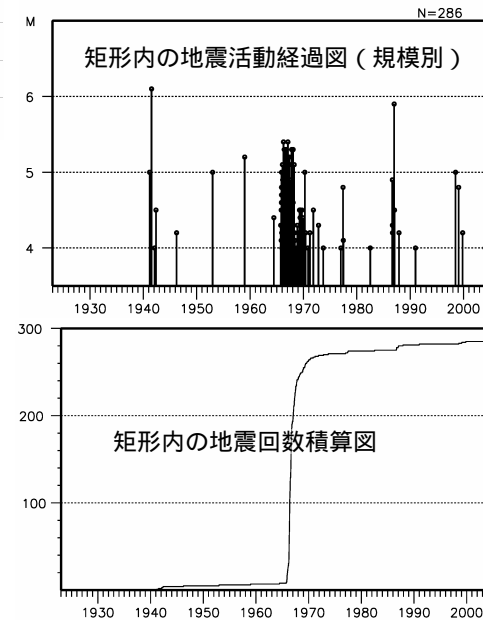
36°N

138°E

1923 01 01 00:00 -- 2004 01 13 12:00

今回の地震

2004年1月11日
M4.0



1月11日、長野県中部の深さ8kmでM4.0の地震があった（最大震度4）。余震は1日間でほぼ収まった。

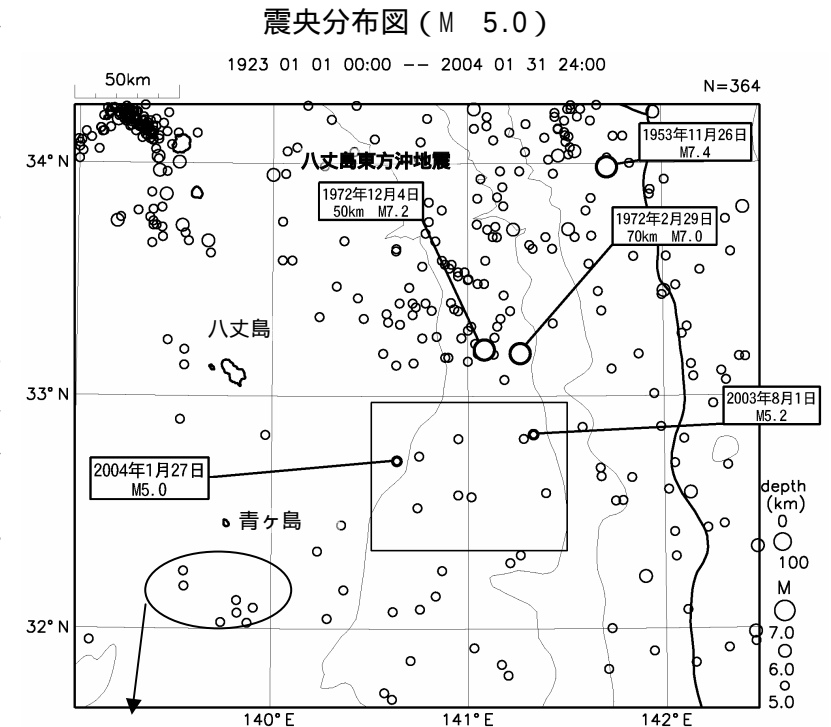
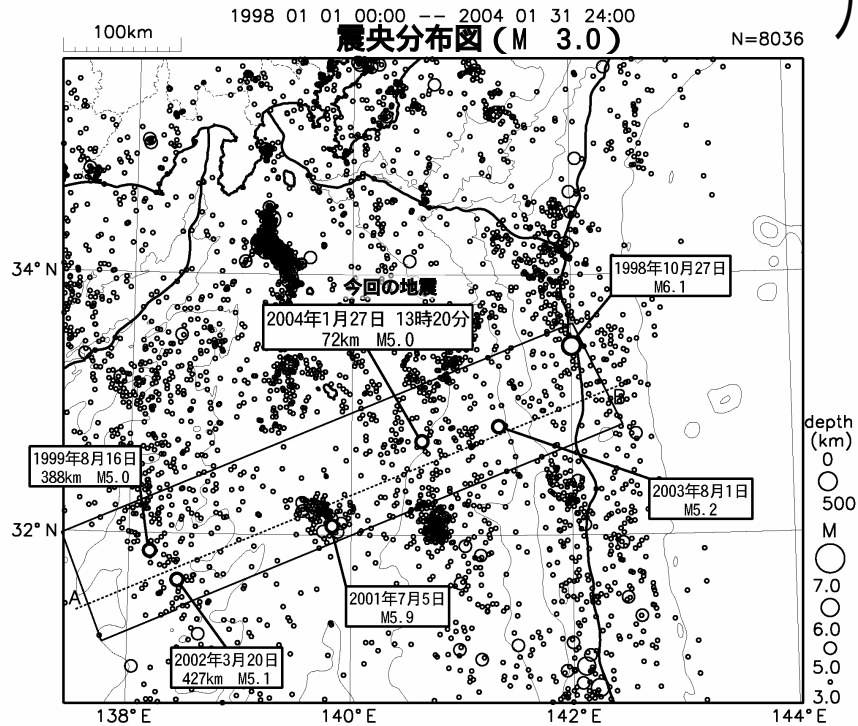
この付近では、1999 年に M4.8 (最大震度 4) の地震が発生し、軽微な被害があった。

また、これらの地震は、松代群発地震（1965 年～）の活動域の南西端に隣接する。

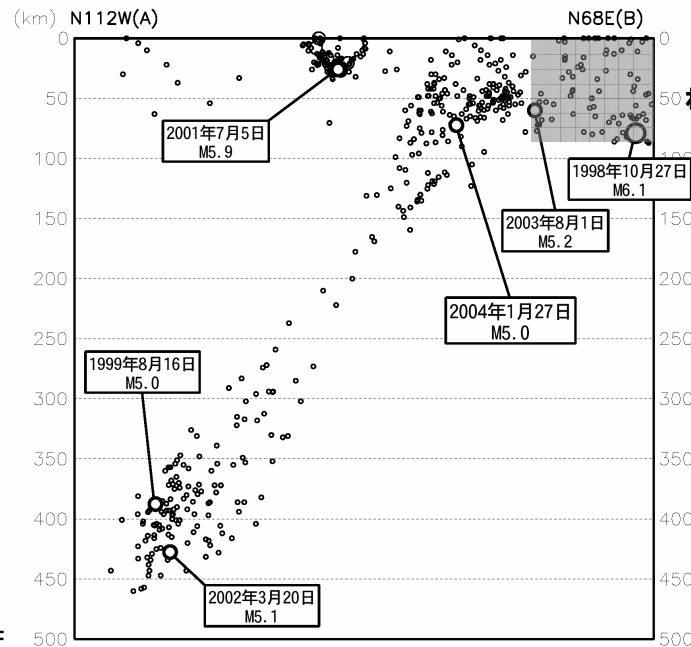
八丈島近海の地震活動

1月27日に八丈島近海の深さ72kmでM5.0(最大震度3)の地震があった。この地震は太平洋プレート内部の地震であり、発震機構は、太平洋プレートの沈み込む方向(西下がり)に圧力軸を持つ型であった。

この付近では、1972年2月にM7.0(最大震度5)12月にM7.2(最大震度6)の地震があり、ともに被害と津波が発生している。

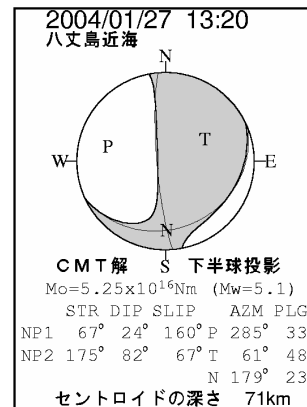


2001年7月の青ヶ島近海の地震活動(最大M5.9)



深さ精度が得られない海域

発震機構



1923 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

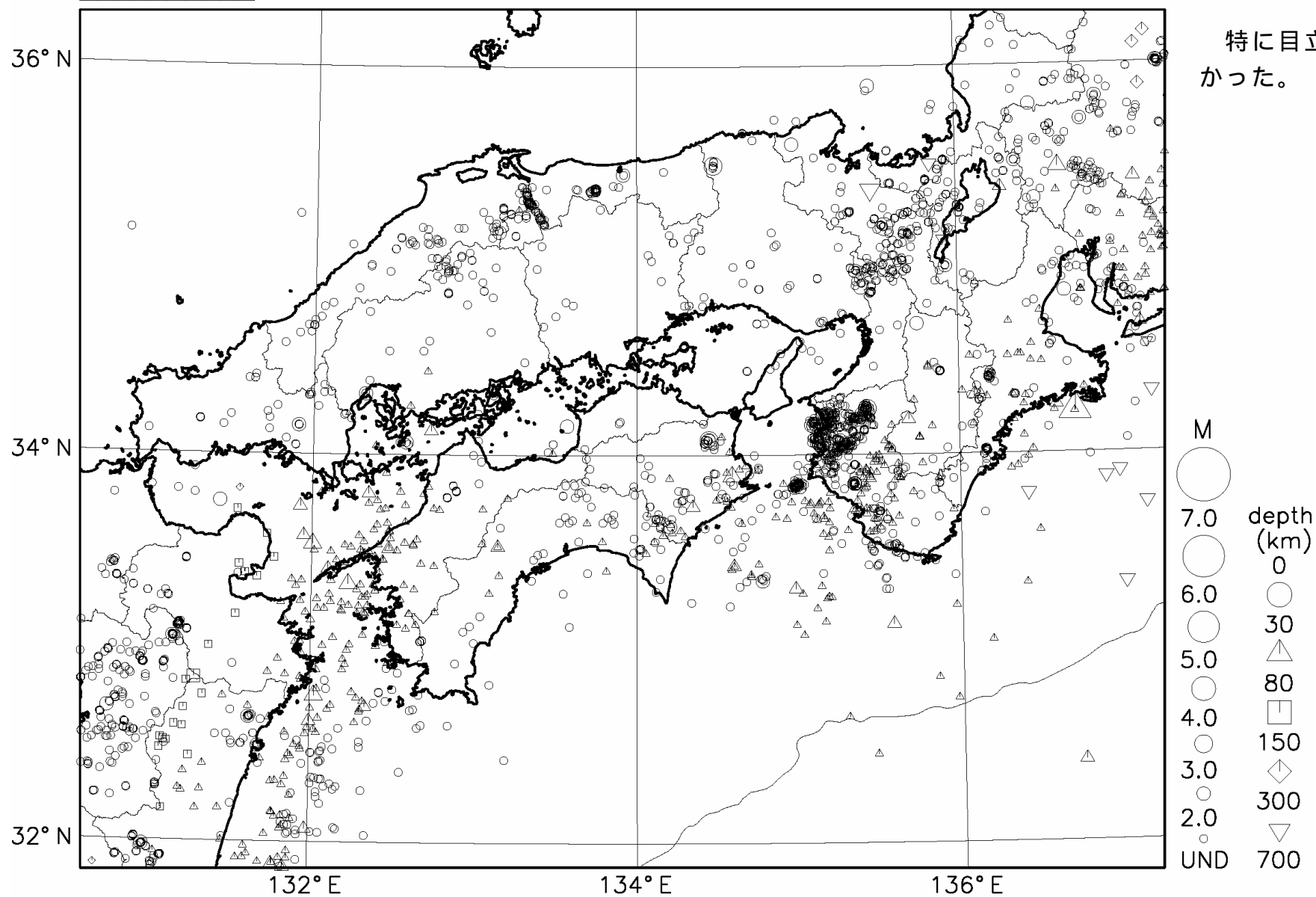


近畿・中国・四国地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

100km

N=2804



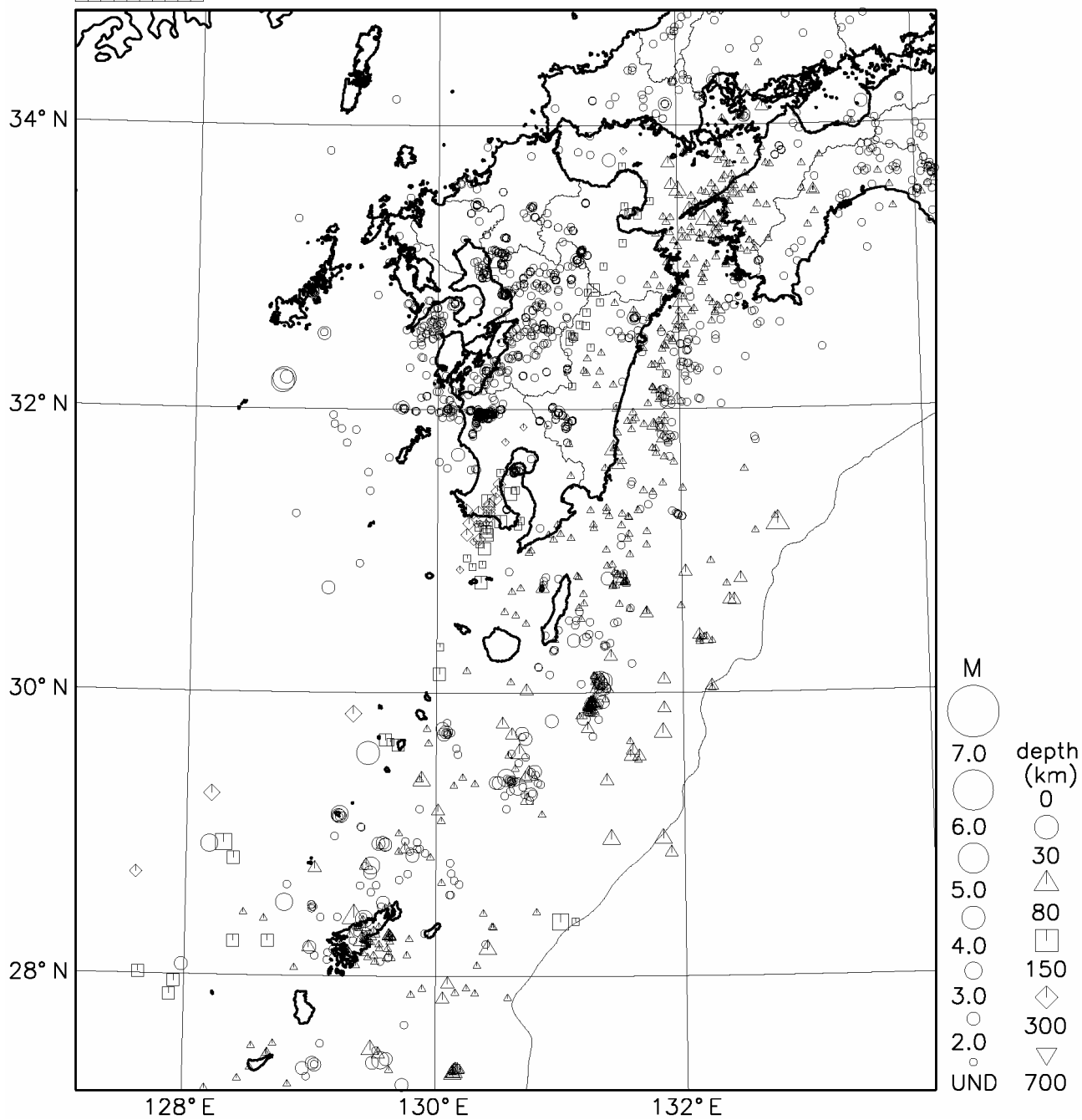
特に目立った活動はなかった。

九州地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

100km

N=2146



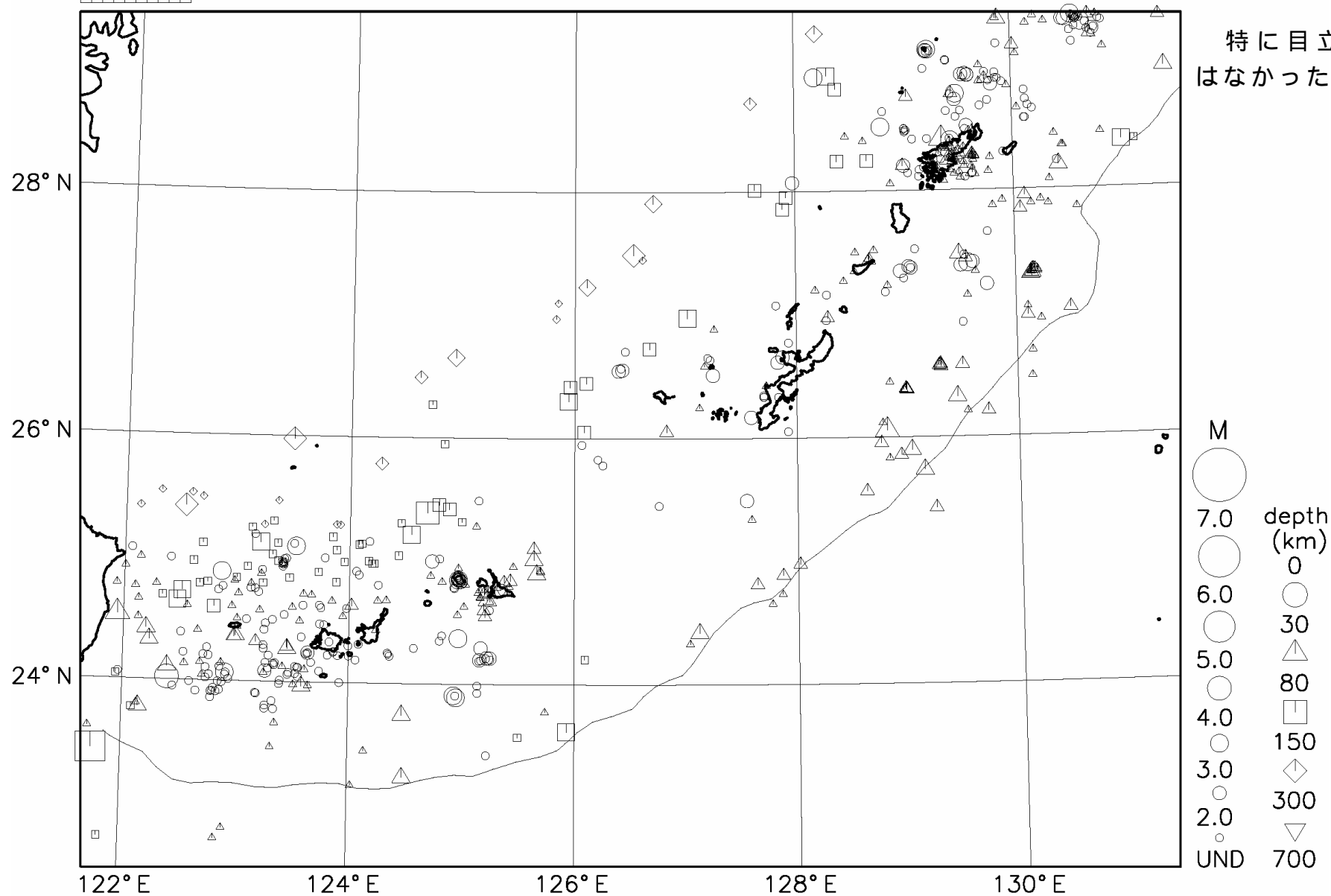
特に目立った活動はなかった。

沖縄地方

2004 01 01 00:00 -- 2004 01 31 24:00

100km

N=613



特に目立った活動
はなかった。

● 東海地域の地震活動

[概況]

東海地域では、熊野灘で M5.4 の地震が発生した。

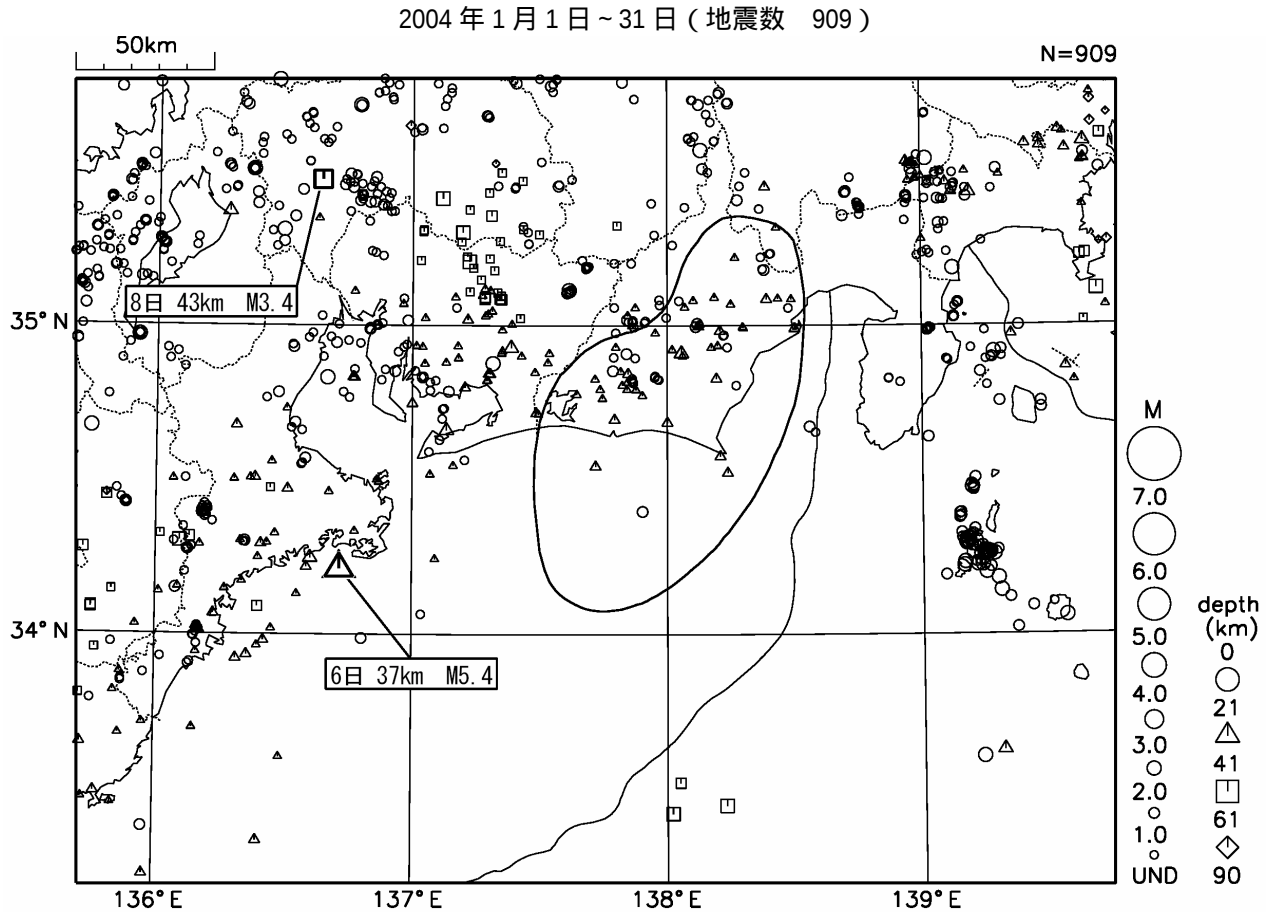


図 1 震央分布図

(図中のなすび型領域は東海地震の想定震源域。M3.0 以上に吹き出し。)

地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果

1 月 26 日に気象庁において第 215 回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図 2、3、4）。その後も地震・地殻活動等の状況に変化はない。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

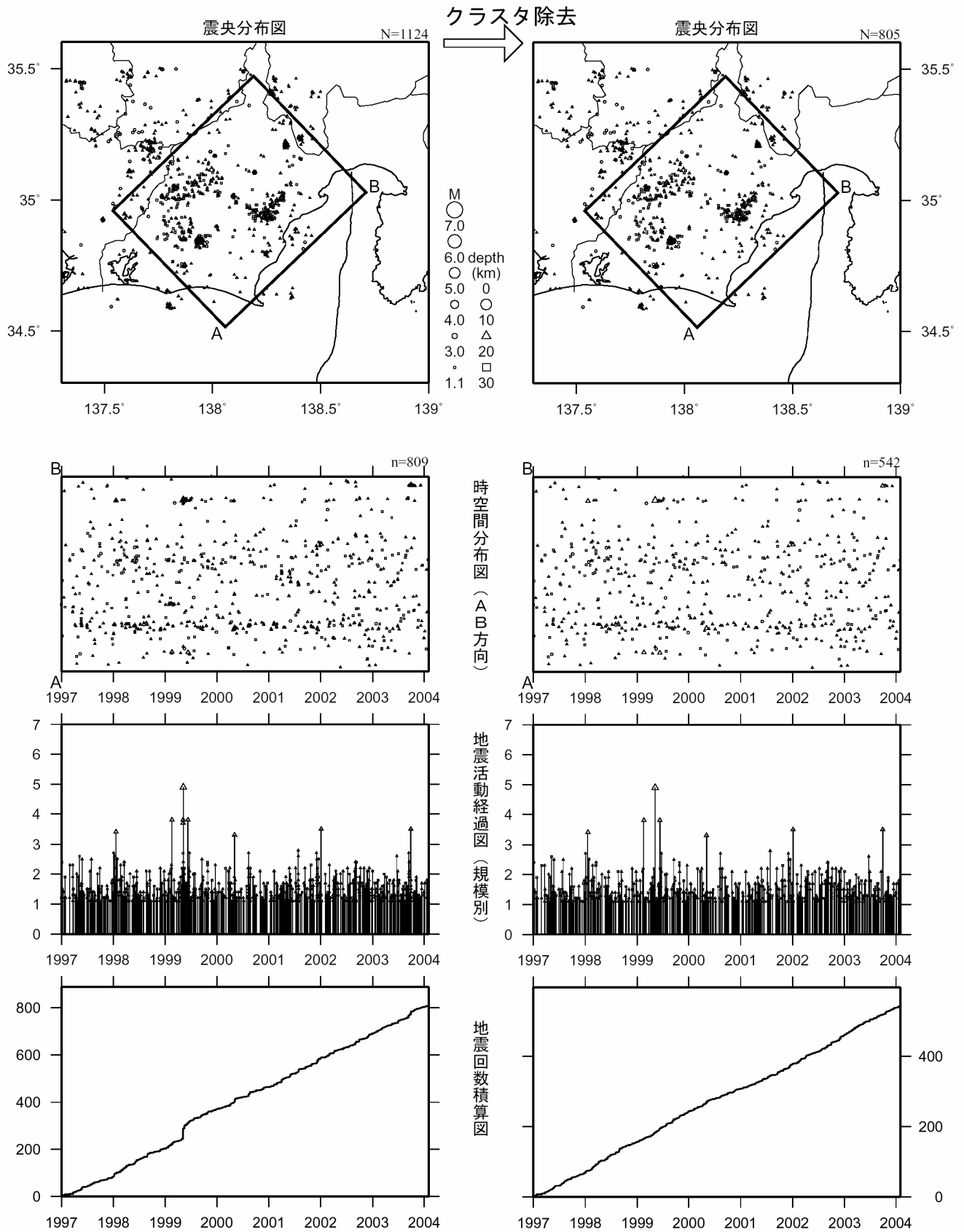
全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる東海地域およびその周辺で見られる長期的な地殻変動は依然継続しています。

東海地震の想定震源域付近の地震活動

固着域（地殻内）

1997/ 1/ 1~2004/ 1/ 31 M ≥ 1.1



固着域（フィリピン海プレート内）

1997/ 1/ 1~2004/ 1/ 31 M ≥ 1.1

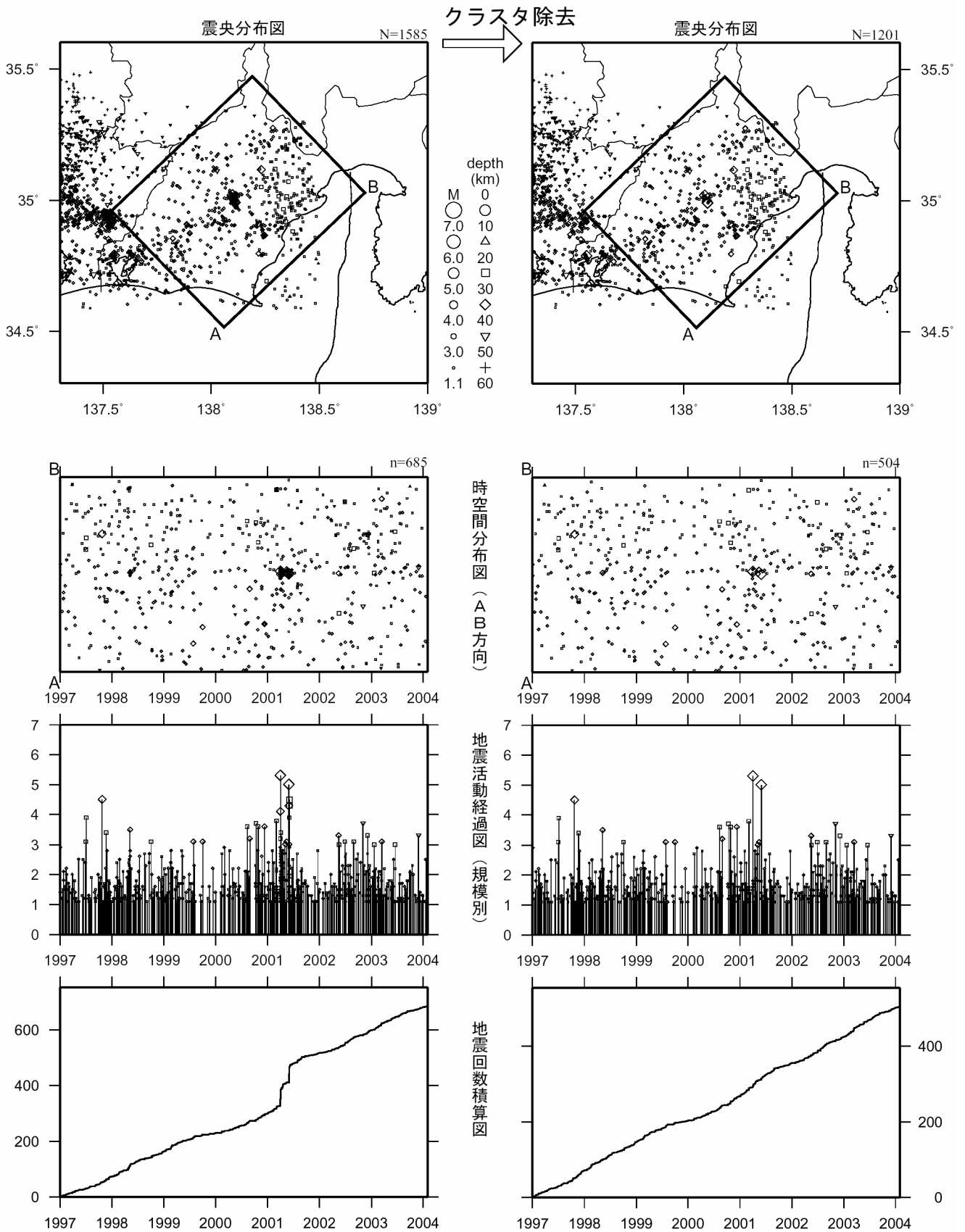


図3 静岡県中西部（固着域周辺）におけるフィリピン海プレート内の地震活動
フィリピン海プレート内では目立った活動はない。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2004/ 1/ 31 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

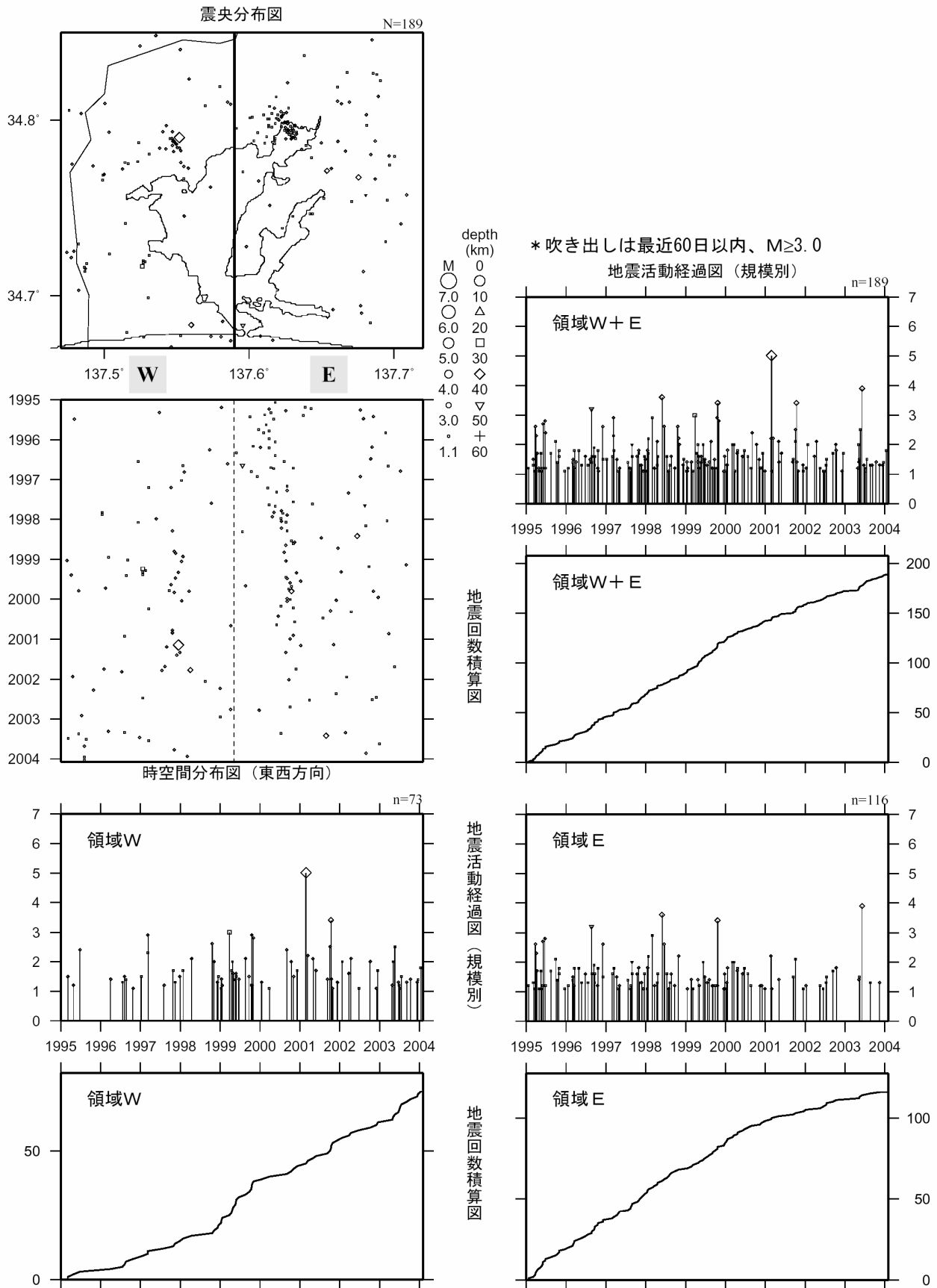


図4 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動（1995 年以降；M1.1 以上、クラスタを除く）
西側領域では、静岡・愛知県境付近で地震が発生した。東側領域では 2000 年終わり頃からの活動の低下が継続している。

別紙 1 - 参考 1

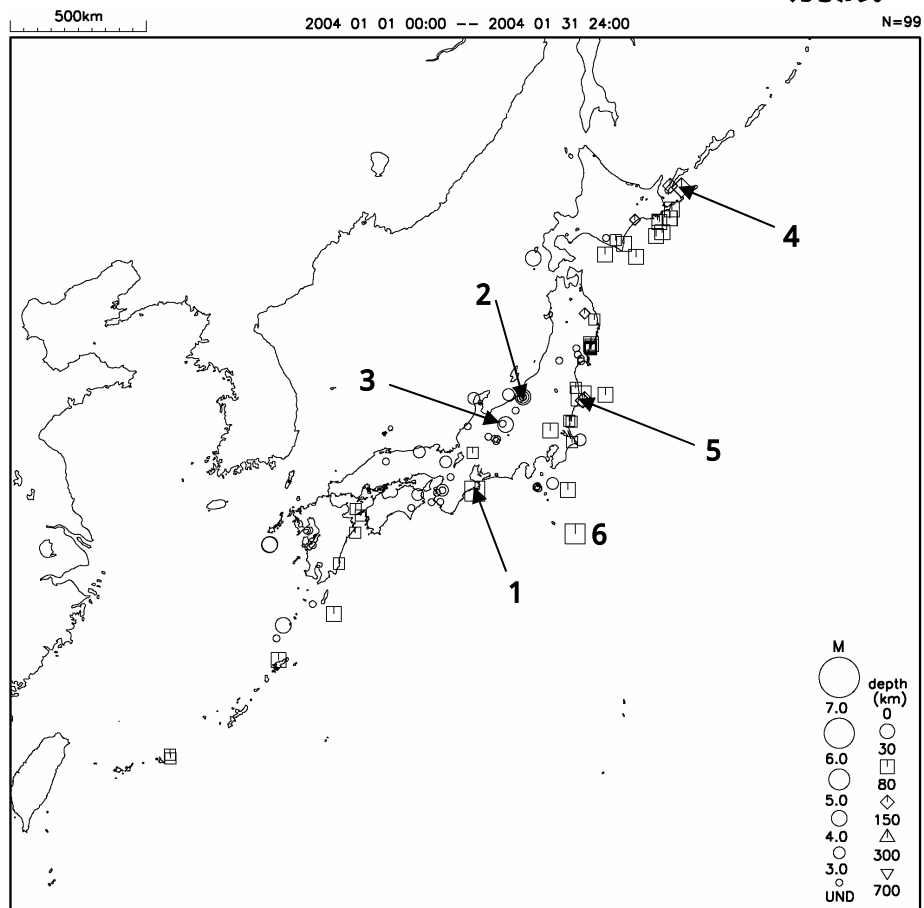


図1 震度1以上が観測された地震

(図中の番号は、表のNo に対応する地震)

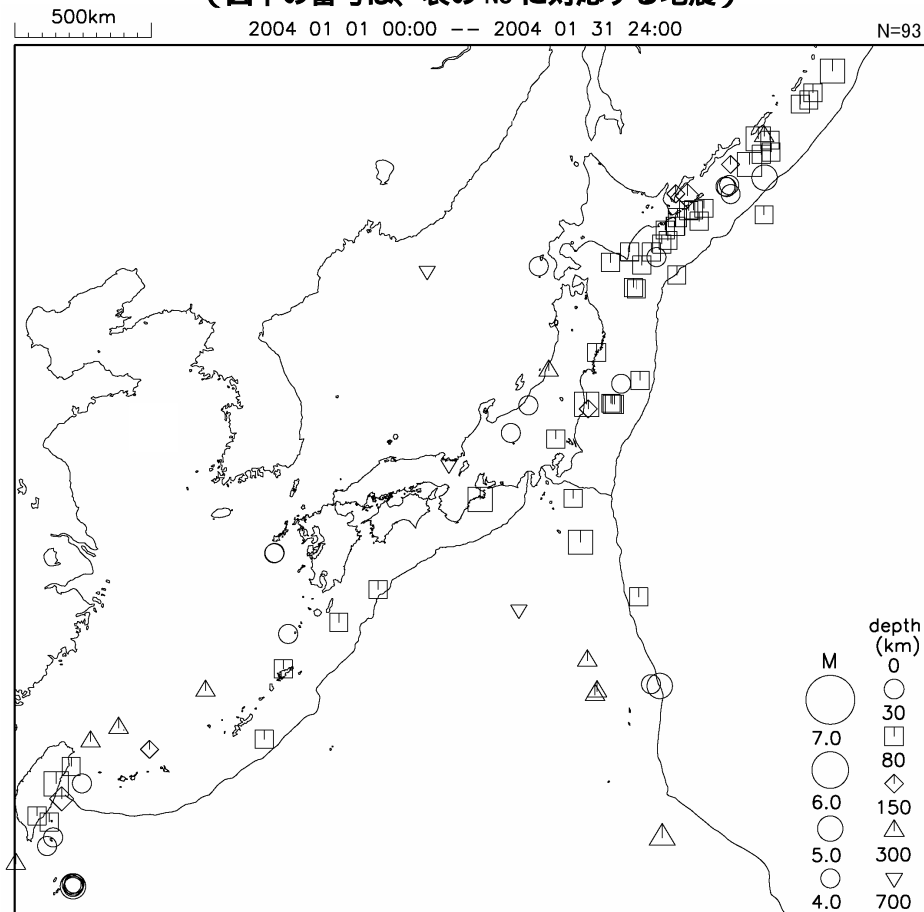


図2 M4.0以上の地震

(図中の番号は、表のNo に対応する地震)

別紙 1 - 参考 2

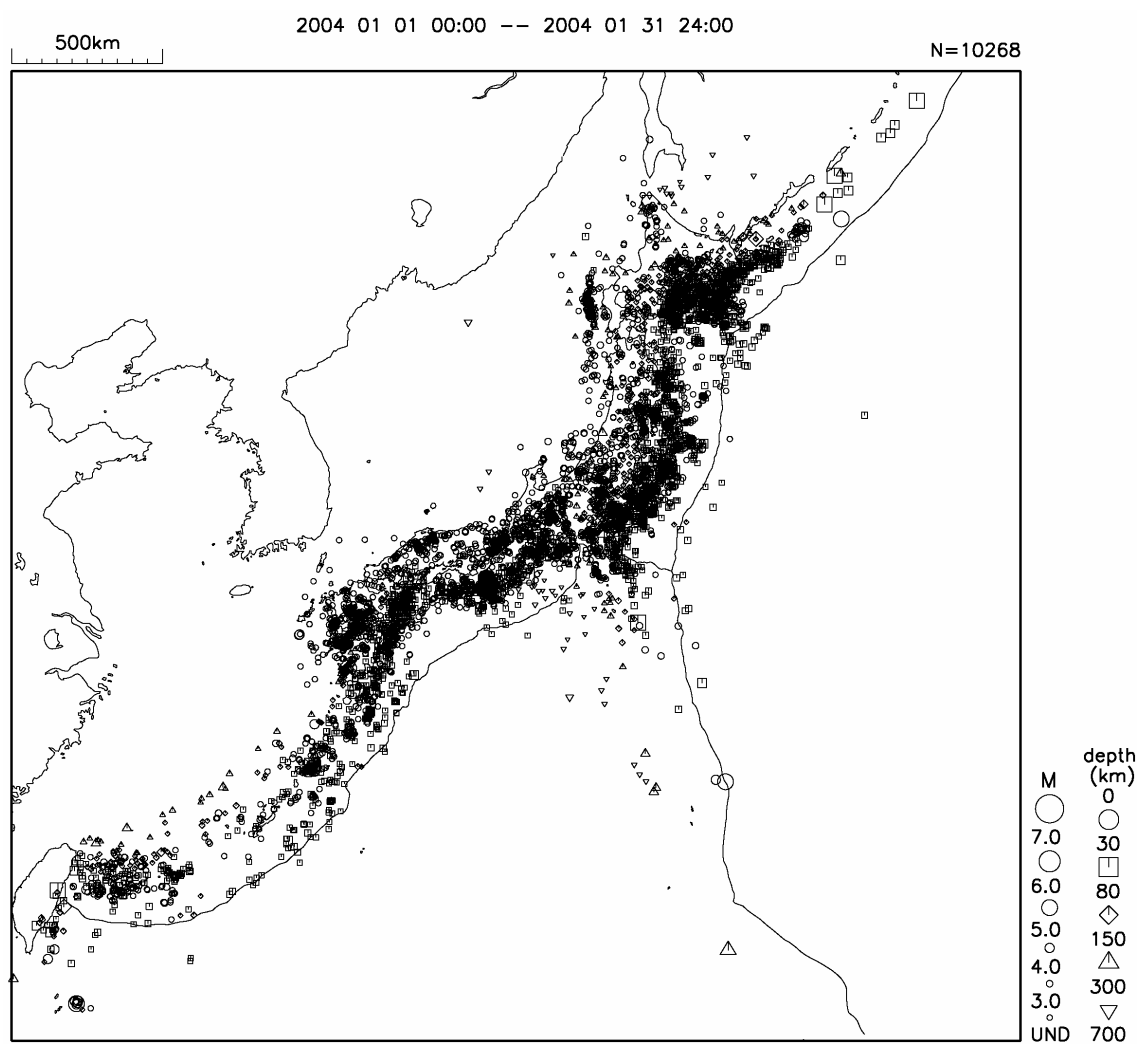


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2004年1月の地震の震央分布

● 前月の地震活動との比較 (M 3 以上)

平成 15 年 12 月の地震活動 (M 3 以上)

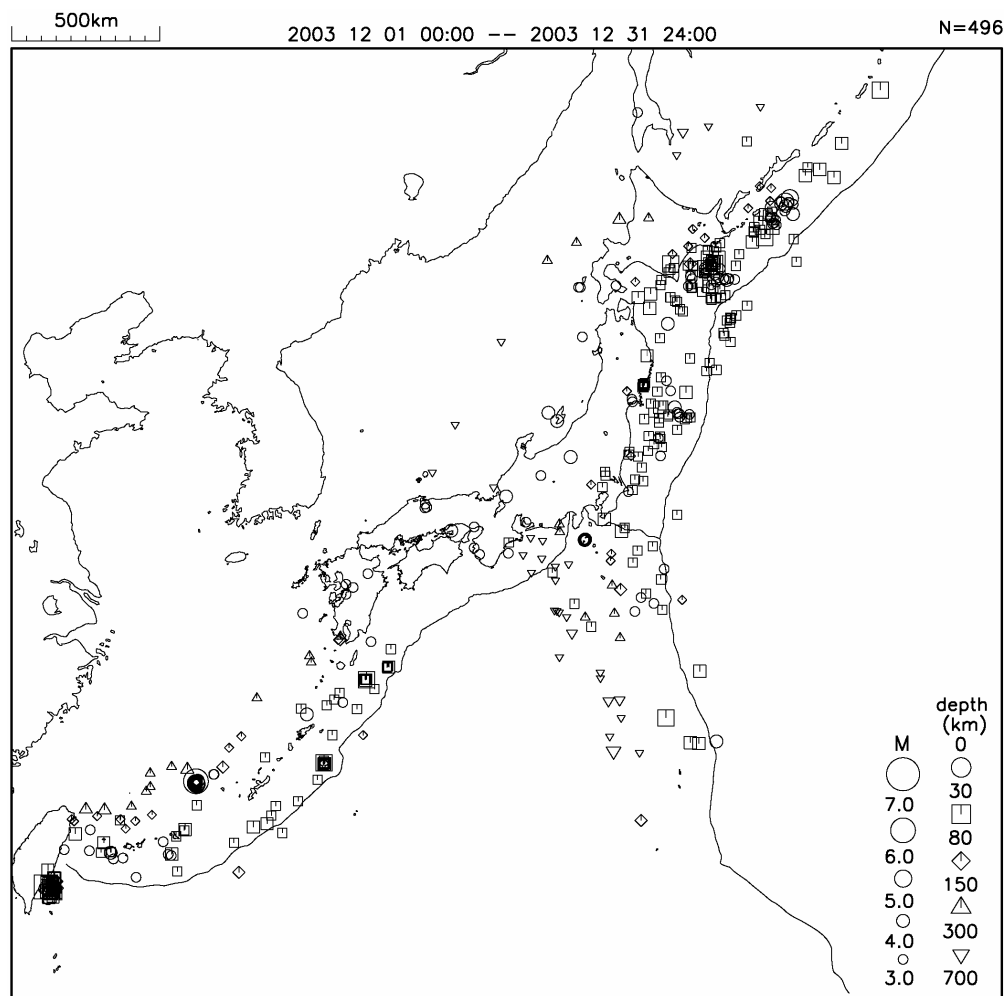


図 4

平成 16 年 1 月の地震活動 (M 3 以上)

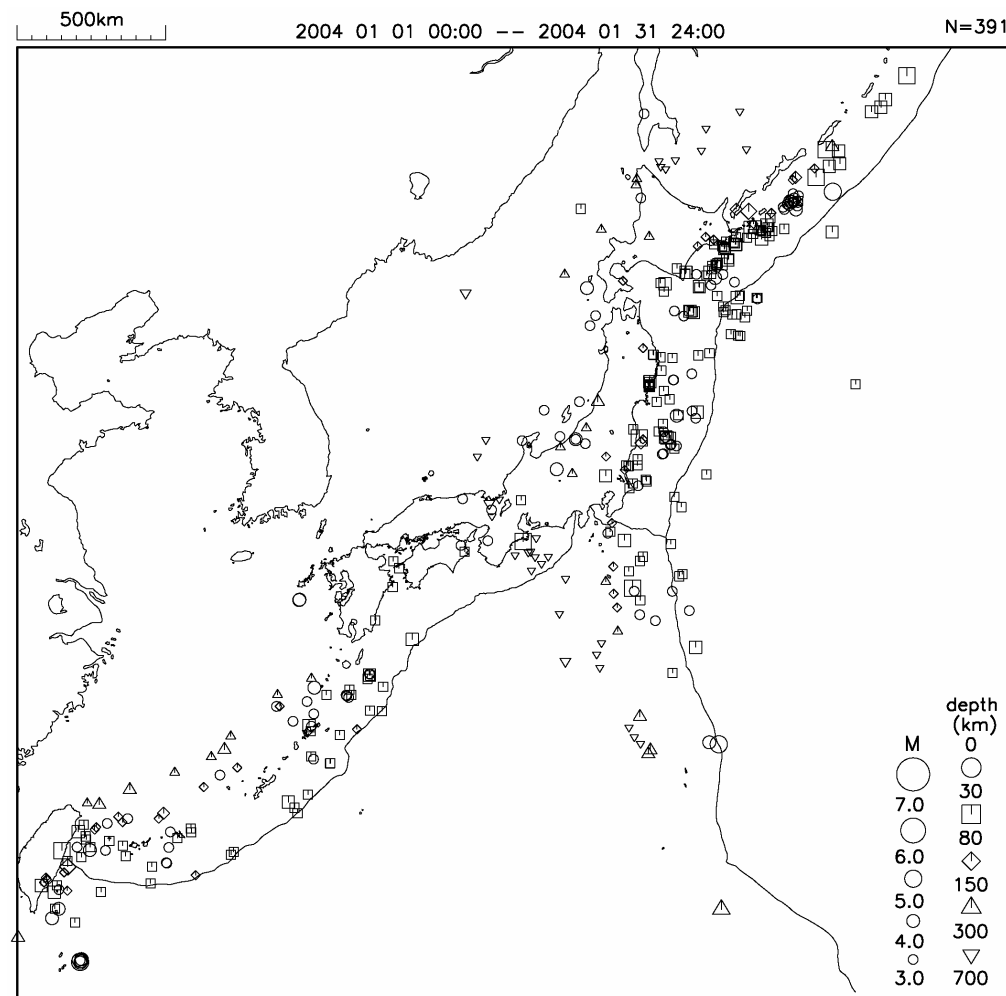


図 5

別紙 1 - 参考 4

● 表 1

過去 1 年間の最大震度別の月別地震回数

<平成15年（2003年）1月～平成16年（2004年）1月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2003年 1 月	72	25	13							110	新島・神津島近海（11回＊）
2 月	61	22	9	1						93	
3 月	58	22	10	2						92	
4 月	57	29	4	4						94	新島・神津島近海（12回＊）
5 月	171	58	22	5			1			257	26日：宮城県沖（震度6弱1回、震度1～4：150回）、長野県南部（24回＊）
6 月	112	40	7	2						161	宮城県沖（震度1～3：65回）
7 月	304	147	58	17	2		2	1		531	宮城県北部（震度6強1回、震度6弱2回、震度1～5弱：414回）、宮城県沖（震度1～3：38回）
8 月	127	67	16	6						216	宮城県北部（震度4：3回、震度3：10回、震度2：39回、震度1：63回）、宮城県沖（震度1～3：23回）
9 月	96	41	18	7			2			164	十勝沖（震度6弱：2回、震度4：5回、震度3：13回、震度2：18回、震度1：25回）、宮城県北部（震度4：1回、震度3：3回、震度2：3回、震度1：14回）、宮城県沖（震度1：14回）
10月	104	47	14	7						172	十勝沖（震度4：2回、震度3：6回、震度2：12回、震度1：23回）、宮城県北部（震度4：1回、震度2：2回、震度1：13回）
11月	74	35	9	6						124	十勝沖（震度4：1回、震度3：1回、震度2：3回、震度1：6回）、宮城県北部（震度3：1回、震度2：4回、震度1：6回）、宮城県沖（震度2：4回、震度1：6回）
12月	108	39	11	7						165	十勝沖（震度4：1回、震度3：3回、震度2：2回、震度1：5回）、宮城県北部（震度3：2回、震度2：1回、震度1：7回）、新島・神津島近海（震度4：3回、震度3：2回、震度2：8回、震度1：25回）
2004年 1 月	65	23	8	3						99	宮城県沖（震度3：2回、震度2：2回、震度1：7回）
過去 1 年計	1337	570	186	67	2	0	5	1	0	2168	（平成15年 2 月～平成16年 1 月）

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上が観測された地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または震度1以上が10回以上観測された地震活動について記載した。

地方公共団体の震度計による震度の発表開始年月日。

平成9(1997)年11月10日	秋田県、埼玉県、神奈川県(横浜市)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
------------------	--

平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

[illegible]

平成11(1999)年7月21日 東京都

平成12(2000)年 1 月12日 栃木県、千葉県、岐阜県

3月28日	滋賀県		
-------	-----	--	--

7月18日 富山県、香川県、大分県

平成13(2001)年 3 月22日	佐賀県			
--------------------	-----	--	--	--

5月10日 山梨県

7月19日 高知県

12月12日	福島県				
--------	-----	--	--	--	--

平成14(2002)年 3 月20日 岩手県、宮城県

7月29日 北海道

別紙 1 - 参考 5

● 表 2

日本及びその周辺における M(マグニチュード) 別の月別地震回数
 < 平成15年(2003年) 1月 ~ 平成16年(2004年) 1月 >

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2003年1月	270	61	8			339	69	
2月	284	63	6			353	69	
3月	275	59	8			342	67	
4月	244	74	7	2		327	83	8日:茨城県沖(M6.0) 29日:北海道東方沖(M6.0)
5月	421	82	4	0	1	508	87	26日:宮城県沖(M7.1) 宮城県沖の余震活動(M3.0~3.9:158回、M4.0~4.9:29回)
6月	336	65	13	2		416	80	9日:台湾付近(M6.3) 10日:台湾付近(M6.3) 宮城県沖の余震活動(M3.0~3.9:65回、M4.0~4.9:4回)
7月	401	75	12	1	1	490	89	26日:宮城県北部(M6.4) 27日:日本海北部(M7.1) 宮城県北部の余震活動(M3.0~3.9:83回、M4.0~4.9:11回、M5.0~5.9:4回、M6.0~6.9:1回) 宮城県沖の余震活動(M3.0~3.9:46回、M4.0~4.9:3回)
8月	301	57	11			369	68	宮城県北部の余震活動(M3.0~3.9:21回、M4.0~4.9:3回) 宮城県沖の余震活動(M3.0~3.9:22回、M4.0~4.9:2回)
9月	554	133	33	5	2	727	173	26日:平成15年(2003年)十勝沖地震(M8.0) 十勝沖地震の余震活動(M3.0~3.9:64回、M4.0~4.9:68回、M5.0~5.9:23回、M6.0~6.9:3回、M7.0~7.9:1回、M8以上:1回) 宮城県北部の余震活動(M3.0~3.9:6回) 宮城県沖の余震活動(M3.0~3.9:15回) 28日:奄美大島近海(M6.0)
10月	514	147	17	4		682	168	十勝沖地震の余震活動(M3.0~3.9:105回、M4.0~4.9:72回、M5.0~5.9:12回、M6.0~6.9:2回) 8日:十勝沖(M6.4)、11日:十勝沖(M6.1) 29日:北海道東方沖(M6.0) 31日:福島県沖(M6.8)
11月	405	106	14	3		528	123	十勝沖地震の余震活動(M4.0~4.9:17回、M5.0~5.9:3回)、福島県沖の余震活動(M4.0~4.9:23回、M5.0~5.9:6回、M6.0~6.9:1回) 12日:父島近海(M6.4) 12日:東海道沖(M6.5)
12月	383	93	17	3		496	113	10日:台湾付近(M6.6)、24日:東シナ海(M6.0)、29日:釧路沖(M6.0)
2004年 1月	298	80	13			391	93	
過去 1 年計	4416	1034	155	20	4	5629	1213	(平成15年2月 ~ 平成16年1月)

注) 日本及びその周辺: 北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

1月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2004 1 01 00:00 --- 2004 1 31 24:00

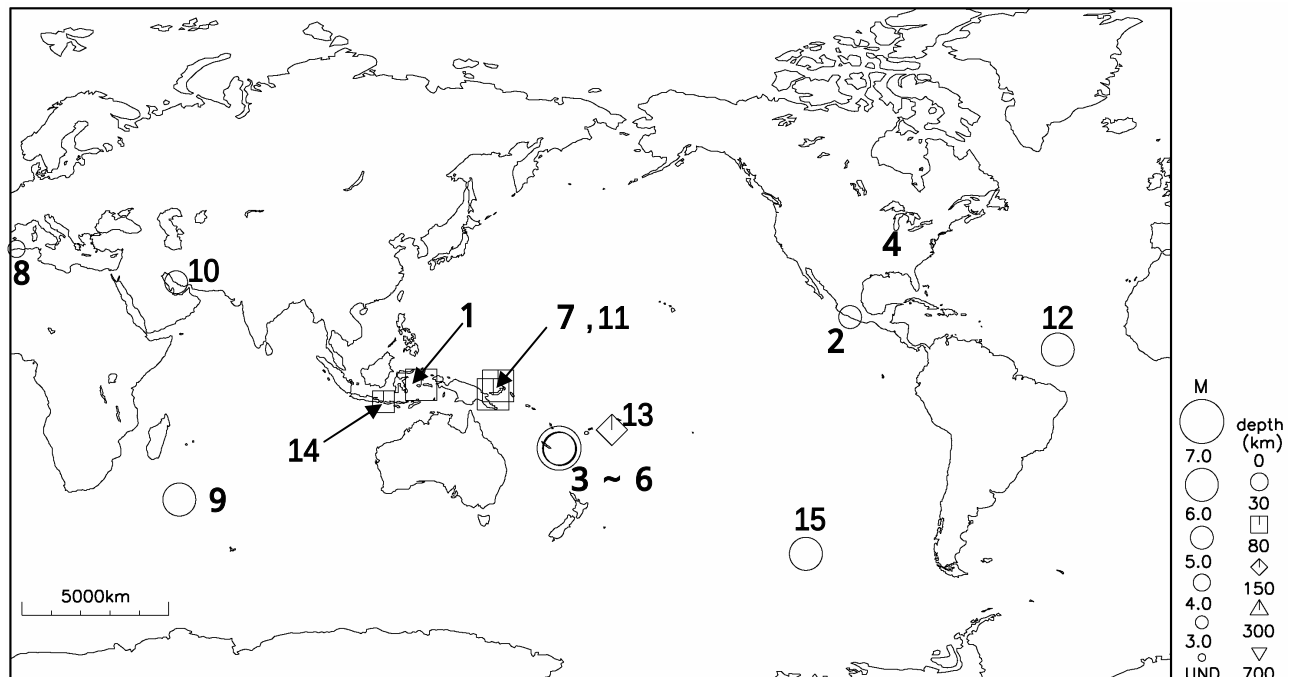


図1 2004年1月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

<震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

** : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

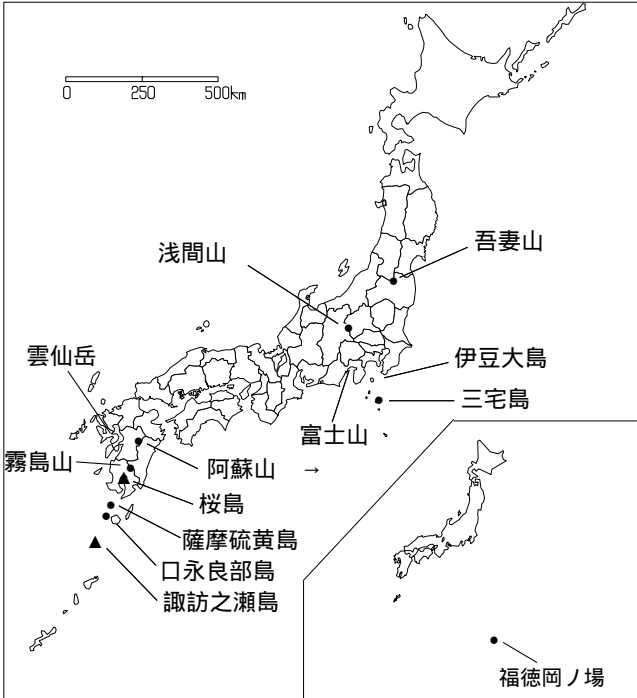
表1 2004年1月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ(km)	mb	Ms	Mw	震央地名	被害状況
1	01月02日05時59分	S 8° 19.2'	E115° 48.0'	33#	5.5	5.4	5.8	インドネシア、バリ島付近	死者1名以上、負傷者22名以上等
2	01月02日08時31分	N17° 31.3'	W101° 13.0'	28	5.6	5.7	6.0	メキシコ、グレロ州沿岸付	建物小被害等
3	01月03日17時07分	S22° 25.4'	E169° 45.7'	10*	5.6	6.0	5.9	ローヤリティー諸島付近	
4	01月03日17時21分	S22° 19.4'	E169° 36.9'	10*	6.0	6.1		ローヤリティー諸島付近	
5	01月04日01時23分	S22° 15.1'	E169° 40.2'	22*	6.4	7.1	6.8	ローヤリティー諸島付近	
6	01月04日01時34分	S22° 30.5'	E169° 56.6'	10*	6.1			ローヤリティー諸島付近	
7	01月10日07時35分	S 6° 01.7'	E149° 25.5'	33#	5.4	6.2	6.2	バプアニューフィニア、ニューブリテン	
8	01月11日03時38分	N36° 51.4'E	3° 27.9'	10*	4.5	4.4		アルジェリア北部	負傷者300名以上等
9	01月11日13時32分	S36° 40.9'E	53° 20.6'	10*	6.1	6.1	6.2	インド洋南部	
10	01月15日01時58分	N27° 41.2'E	52° 22.9'	12	5.4	4.9		イラン南部	小被害
11	01月15日16時26分	S 3° 28.9'E	E150° 58.3'	33#	5.7	6.1	6.2	バプアニューフィニア、ニューアイルランド	
12	01月17日03時07分	N 7° 41.2'W	37° 40.2'	10*	5.9	6.1	6.2	大西洋中央海嶺中部	
13	01月25日20時43分	S16° 50.4'W	174° 10.0'	130	6.5		6.7	トンガ諸島	
14	01月29日07時15分	S 3° 09.0'E	E127° 24.6'	33#	6.0	6.5	6.7	インドネシア、セラム島	
15	01月29日12時52分	S50° 17.7'W	114° 47.1'	10*	5.3	6.0	6.1	東太平洋海嶺南部	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2004年2月5日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源及びマグニチュード(Ms)の欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・USGSによれば、震源の深さ「33#」は、震源計算による深さの精度が得られないため、「33km」に固定していることを示す。また、震源の深さに「*」が付いているのは、震源計算で求めた値とは異なり、地球物理学的見地からの推定値であることを示す。

平成 16 年 1 月の主な火山活動

記事を掲載した火山



過去 1 年間に記事を掲載した火山

火 山 名		平成15年（2003年）												H16
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
浅間山	レベル記号	▲	▲	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
伊豆大島	レベル記号													
阿蘇山	レベル記号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
雲仙岳	レベル記号	●												
桜島	レベル記号	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
雌阿蘇岳				●										
十勝岳		●		●	●	●								
樽前山							●			●	●	●		
北海道駒ヶ岳		●												
吾妻山													●	
富士山														
箱根山														
伊豆東部火山群						●								
三宅島		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
伊豆鳥島			●			●							●	
噴火浅根			●										●	
福徳岡ノ場			●										●	●
霧島山		●	●										●	●
薩摩硫黄島		▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●		
口永良部島		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
諏訪之瀬島		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

【記号の意味：▲噴火した火山、●観測データ等に変化のあった火山、その他記事を掲載した火山
浅間山、伊豆大島、阿蘇山、雲仙岳、桜島の丸付き数字は期間中の火山活動度レベル】

- 吾妻山 下旬に地震活動が活発になった。
- 浅間山 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）]
地震・微動の発生回数がやや多く、また火口底温度が高い状態が継続しており、やや活発な火山活動であった。
富士山 昨年9月に東北東斜面で確認された地面の陥没とごく弱い噴気は、その後状況に若干の変化はあるものの、その他の観測データに異常な変化はなく、噴火活動に直接つながる現象ではないと考えられる。
- 伊豆大島 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]
地震活動は静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。
- 三宅島 火山活動は全体としてはゆっくりと低下しているが、最近1年あまりは低下の割合が緩慢になっている。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も長期的には減少傾向にあるが、日量3千～1万トン程度で概ね横ばい傾向となっている。
- 福徳岡ノ場 26日に変色水が確認された。（海上保安庁第三管区海上保安本部の調査による）
- 阿蘇山 [火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）から3（小規模噴火の可能性）に上昇]
中岳第一火口の火山活動が活発になり、14日に規模の大きい土砂噴出が発生した。湯だまり温度が依然高い状態にあり、湯だまり中央部での噴湯現象が継続した。湯だまり量の減少も続き4日以降は約4割となった。また、孤立型微動の発生回数が多い状態であった。
- 雲仙岳 [火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）]

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

- 霧島山 昨年 12 月 12 日以降に御鉢火口でみられている活発な噴気活動や微小な地震の活動は、盛衰を繰り返しながら継続したが、1 月下旬にはいずれも低調になった。

▲ 桜 島 [火山活動度レベルは 2 (比較的静穏な噴火活動)]

従来からの南岳山頂の噴火が継続したが、月間の噴火回数は 1 回で、桜島としては比較的静穏な噴火活動であった。ただし、昨年 12 月 31 日～1 月 1 日に A 型地震がやや多く発生しており、今後噴火活動が活発化する可能性もある。

- 口永良部島 地震が引き続きやや多い状態で、微動も時折発生した。

- ▲ 諏訪之瀬島 従来からの小規模な(風向きによっては島内の集落に少量の降灰がある程度の)山頂噴火が継続した。

2004 年 1 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類と号数	発表日時	概要
吾妻山	火山観測情報第 1 号 火山観測情報第 2 号	23 日 14 時 00 分 27 日 17 時 30 分	地震回数が多い状態。 第 97 回火山噴火予知連絡会のコメント。引き続き地震回数が多い状態。
三宅島	火山観測情報第 1 号 ↓ (1 日 1 回発表) 火山観測情報第 4 号 火山観測情報第 5 号 ↓ (1 日 2 回発表) 火山観測情報第 50 号 火山観測情報第 51 号 火山観測情報第 52 号 ↓ (1 日 2 回発表) 火山観測情報第 59 号	1 日 16 時 30 分 ↓ 4 日 16 時 30 分 5 日 09 時 30 分 ↓ 27 日 16 時 30 分 27 日 17 時 30 分 28 日 09 時 30 分 ↓ 31 日 16 時 30 分	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。 第 51 号は第 97 回火山噴火予知連絡会の統一見解。
阿蘇山	火山観測情報第 1 号 火山観測情報第 2 号	5 日 14 時 45 分 9 日 13 時 00 分	火山活動がやや活発(孤立型微動が多い状態、湯だまり温度が高く湯量の減少が継続)。火山活動度レベルは 2。
	臨時火山情報第 1 号	14 日 15 時 57 分	規模の大きい土砂噴出発生。火山活動度レベルは 3 (小規模噴火の可能性) に上昇。
	火山観測情報第 3 号 火山観測情報第 4 号 火山観測情報第 5 号 火山観測情報第 6 号	14 日 17 時 08 分 15 日 17 時 35 分 16 日 15 時 00 分 19 日 13 時 40 分	火口内の状況、噴出物の状況。孤立型微動が多い状態。火山活動が活発で、火山活動度レベルは 3。
	火山観測情報第 7 号 火山観測情報第 8 号 火山観測情報第 9 号 火山観測情報第 10 号	23 日 11 時 15 分 26 日 13 時 00 分 27 日 18 時 20 分 30 日 11 時 40 分	火山活動が活発(孤立型微動が多い状態)。火山活動度レベルは 3。 第 9 号は第 97 回火山噴火予知連絡会の統一見解(今後、噴石を火口外に飛ばすような噴火の可能性もある)。
霧島山	火山観測情報第 1 号	2 日 15 時 00 分	地震は少ない状態、噴気は確認されない。
	火山観測情報第 2 号 火山観測情報第 3 号 火山観測情報第 4 号	3 日 10 時 30 分 5 日 10 時 30 分 9 日 15 時 00 分	御鉢付近で継続時間の長い微動発生、噴気活動及び地震活動が再び活発。
	火山観測情報第 5 号 火山観測情報第 6 号	13 日 15 時 00 分 16 日 15 時 00 分	御鉢の火山活動(噴気活動、地震活動)は消長を繰り返して継続
	火山観測情報第 7 号 火山観測情報第 8 号 火山観測情報第 9 号 火山観測情報第 10 号	19 日 14 時 00 分 23 日 15 時 00 分 26 日 15 時 00 分 30 日 15 時 00 分	御鉢の火山活動(噴気活動、地震活動)は消長を繰り返しながらやや収まる。